

# 3

## パソコンを持ち歩く

本章では、パソコンをバッテリー駆動で使用する時のことについて説明します。

<b>1</b>	バッテリーを使う .....	90
<b>2</b>	バッテリーを節約する .....	96



# ① バッテリーを使う

メインバッテリーを充電して、または充電したバッテリーパックと交換して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

別売りのセカンドバッテリーを使用すると、さらに長時間バッテリー駆動で使用できます。ご購入時は、バッテリーは十分に充電されていません。

本製品を初めてお使いになるときは、バッテリーを充電してからお使いください。

☞ バッテリーの充電 ☞ 「1章 4 バッテリーの充電」

☞ メインバッテリーパックの交換 ☞ 「本節 4 メインバッテリーパックを交換する」

☞ セカンドバッテリー（別売り）の交換 ☞ 「4章 2 セレクタブルベイ機器の差し替え」

## ① バッテリー充電量の確認をする

バッテリー駆動で使う場合、バッテリー（メインバッテリーと取り付けている場合はセカンドバッテリー）充電量を確認しておかないと使用中にバッテリーの充電量が減少し、途中で作業を中断したり、あわてて電源コードを接続することになります。

バッテリー充電量を確認するには、次の方法があります。

### ● システムインジケータで確認する

ACアダプタを接続したとき、Main Battery  LED および Secondary Battery  LED（セカンドバッテリーを取り付けている場合）が緑色に点灯すれば充電完了です。オレンジ色に点灯あるいは点滅した場合は、バッテリーパックの充電が必要です。

☞ Main Battery  LED および Second Battery  LED  
☞ 「1章 4-3 バッテリーに関する表示」

### ● アイコンで確認する

#### ● Windows 98 の場合

タスクバーの省電力アイコン  の上にマウスポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

ACアダプタを接続している場合



ACアダプタを接続していない場合



（表示例）

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。



メモ

- ・タスクバーに表示される省電力アイコンの絵は現在使用されている省電力モードにより変わります。
- ・省電力ユーティリティの [電源設定] タブの設定内容によっては、タスクバーに省電力アイコンが表示されません。表示させたいときは、[電源設定] タブで [タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックしてください。

## Windows 95 の場合

タスクバーのバッテリーメーターアイコン (  または  ) の上にマウスポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

ACアダプタを接続している場合



ACアダプタを接続していない場合



(表示例)

また、ダブルクリックすると、バッテリーメーターの画面が表示されます。

バッテリーメーターアイコン  が表示されていない場合は、[コントロールパネル]-[パワーマネージメント]をダブルクリックすると、電源のプロパティが表示されます。「タスクバーにバッテリーの状態を表示」をチェックすると、タスクバーにバッテリーメーターアイコン  を表示します。

## Windows 2000 の場合

タスクバーの省電力アイコン (  ) の上にマウスポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

ACアダプタを接続している場合



ACアダプタを接続していない場合



(表示例)

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。



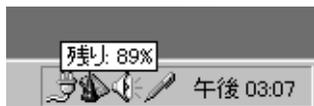
メモ

- ・タスクバーに表示される省電力アイコンの絵は現在使用されている省電力モードにより変わります。
- ・省電力ユーティリティの [電源設定] タブの設定内容によっては、タスクバーに省電力アイコンが表示されません。表示させたいときは、[電源設定] タブで [タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックしてください。

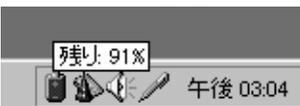
## Windows NT の場合

タスクバーのバッテリーインジケータアイコン (  または  ) の上にマウスポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

ACアダプタを接続している場合



ACアダプタを接続していない場合



(表示例)

また、ダブルクリックすると、バッテリーメーターの画面が表示されます。

## ② バッテリーの使用時間

電源として使われるバッテリーの使用時間は、充電量や使用状態により多少差があります。



**注意** ・バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。バッテリー（メインバッテリー、セカンドバッテリー、時計用バッテリー）を使いきってしまうと、スタンバイ機能（）、サスペンド機能（）が効かなくなり、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリーを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。

バッテリーでの使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。次の時間は目安にしてください。

充電完了の状態で使用した場合

省電力モード	動作時間
フルパワーまたはハイパワー	約2.8時間

（注）当社オリジナルプログラムで計測

### ● 未使用時の保持時間

パソコン本体を使用しないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減少します。この場合も放置環境などに左右されますので、保持時間は、目安にしてください。

フル充電した状態で電源を切った場合

パソコン本体の状態	保持時間
: スタンバイ : サスペンド	約5日間
電源切断（シャットダウン） ハイバネーション	約1週間



メモ

- ・バッテリーパックをパソコンから取りはずしておいた方が、バッテリーで使用できる時間は長くなります。
- ・スタンバイ機能が有効の場合、放電しきるまでの時間は約4日間です。ACアダプタやバッテリーパックを取り付けていない場合は、スタンバイ機能で電源を切ったときの内容は保持できません。
- ・Wake up on LAN 機能を有効にしている場合、放電しきるまでの時間は約1日間です。Wake up on LAN 機能を有効にしている場合、バッテリーの取りはずしはしないでください。

### ● バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

Main Battery LED および Second Battery LED（セカンドバッテリーを取り付けている場合）がオレンジ色に点滅する（バッテリーの減少を示しています）警告音（ピープ音）が鳴る

この場合はただちにACアダプタを接続し、電源を供給してください。



お願い

- ・長時間使用しないで自然に放電しきってしまったときは、警告音でも Main Battery  LED および Second Battery  LED (セカンドバッテリーを取り付けている場合) でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

### 3 内蔵バッテリー

取りはずし可能なバッテリーパックのほかに、内蔵バッテリーとして、時計用バッテリーがあります。時計用バッテリーは、内蔵時計を動かすためのものです。

時計用バッテリーの充電完了までの時間は、次のとおりですが実際には、充電完了まで待たなくても使用可能です。また、充電状態を知ることはできません。

状態	時計用バッテリー
電源 ON (Power  LED が点灯)	約 10 時間
電源 OFF (Power  LED が消灯)	充電しない



メモ

- ・時計用バッテリーの充電は、普通に使用している場合は、あまり意識して行う必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
- ・時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning (警告) メッセージが出ます。

### 4 メインバッテリーパックを交換する



警告

- ・バッテリーパック (メインバッテリーと取り付けている場合はセカンドバッテリー) は、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、指定の製品をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため発煙、火災のおそれがあります。使用済みのバッテリーパックの処理は、地方自治体の条例または規則に従ってください。



お願い

- ・Wake up on LAN 機能を有効にした状態でスタンバイ機能を実行し、バッテリーパックを交換するとデータが失われます。バッテリーパックを交換する際は、Wake up on LAN 機能を無効にして行なってください。

### 取りはずし / 取り付け

#### 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る



注意

- ・バッテリーパックの取り付け / 取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイ機能 (  )、サスペンド機能 (  ) を実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

ハイバネーション機能を使用すると、再起動にかかる時間が短くて済みます。

電源の切り方、およびハイバネーション機能を使用する方法については、「2章 3 電源を切る」をご覧ください。

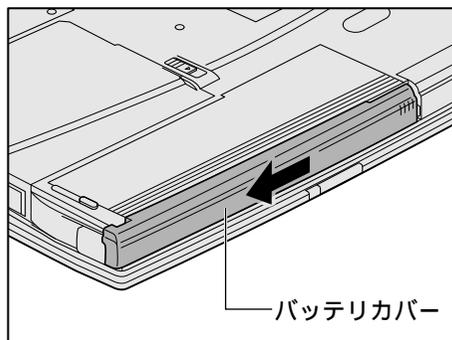
☞ スタンバイ / サスペンド機能、ハイバネーション機能について

⇒ 「5章 1 消費電力を節約する」

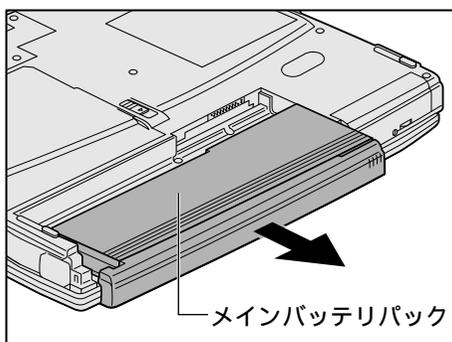
2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

4 バッテリカバーをスライドさせる



5 メインバッテリーパックを取り出す

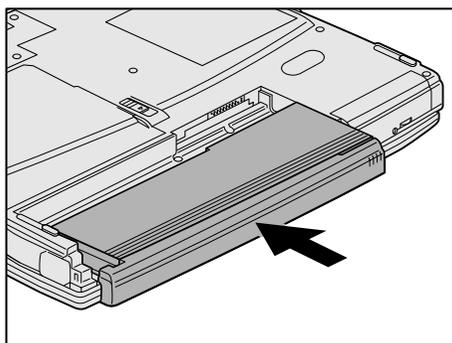


注意 ・バッテリーパックを保管する場合は、ショート防止のために電極に絶縁テープぜつえんを貼るなどの対策をこうじてください。そのままの状態では保管すると、破裂や火災のおそれがあります。

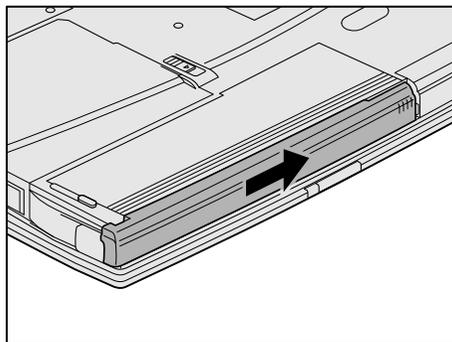
・本体側の電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

6 交換するメインバッテリーパックをコネクタの位置に合わせ、静かに差し込む

新しい、あるいは充電したメインバッテリーパックを注意して差し込んでください。



## 7 バッテリーカバーをスライドさせ、メインバッテリーパックを固定する



**注意** ・バッテリーパックはしっかりと取り付けられているかどうか、必ず確認してください。正しく取り付けられていないと、持ち運びのときにバッテリーパックがはずれ落ちて、思わぬケガのおそれがあります。

## 3章

パソコンを持ち歩く

## 2

# バッテリーを節約する

バッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

バッテリー（メインバッテリーと取り付けられている場合はセカンドバッテリー）の充電を完了（フル充電）する

バッテリー駆動で使用した後は、バッテリーを充電しておく

スタンバイ機能（ ）、サスペンド機能（ ）またはハイバネーション機能（  ）を活用し、こまめに電源を切る

スタンバイ/サスペンド機能やハイバネーション機能とは、電源を切った後、次に電源を入れると、直前の状態を再現することができる機能です。

☞ スタンバイ/サスペンド機能、ハイバネーション機能について

⇨「5章 1 消費電力を節約する」

パネルスイッチ機能を活用し、入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

☞「2章 3 電源を切る」

省電力に設定する

☞ 省電力設定 ⇨「5章 1 消費電力を節約する」

# 4

## ハードウェアについて

本章では、各ハードウェアについて説明します。  
注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

<b>1</b>	周辺機器の取り付けについて .....	98
<b>2</b>	セレクトابلベイ機器の差し替え .....	99
<b>3</b>	マウスの接続 .....	105
<b>4</b>	フロッピーディスク装置 .....	107
<b>5</b>	CD-ROM 装置 .....	114
<b>6</b>	ハードディスク装置 .....	118
<b>7</b>	PC カード .....	131
<b>8</b>	増設メモリ .....	137
<b>9</b>	LAN の接続 .....	141
<b>10</b>	USB 機器の接続 .....	151
<b>11</b>	テレビへの接続 .....	152
<b>12</b>	プリンタの接続 .....	154
<b>13</b>	CRT ディスプレイの接続 .....	155
<b>14</b>	外付けキーボードの接続 .....	158

# 1 周辺機器の取り付けについて

本章で説明していない周辺機器については、それぞれの周辺機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け/取りはずしの方法は周辺機器によって違います。各項を読んでから作業をしてください。



**注意** ・パソコンが動作中に着脱することが認められていない周辺機器を接続する場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。



お願い

- ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ・湿度やホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- ・静電気が発生しやすい環境では作業をしないでください。
- ・作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- ・本製品を改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

## ● パソコン本体へのケーブルの接続

次の点に注意して、接続してください。

PCカードやコネクタの上下を合わせる

固定用ネジがある場合は、ケーブルがはずれないようにネジを締める



お願い

- ・ケーブルなどを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

周辺機器を使用するときは、このほかに作業が必要なことがあります。また、その必要な作業は、使用するシステムで異なることがあります。それぞれの周辺機器に付属の説明書をご覧ください。

## ② セレクタブルベイ機器の差し替え

セレクタブルベイには、次にあげる機器を内蔵することができます。

- ・CD-ROM 装置
- ・フロッピーディスク装置
- ・セカンドハードディスクアダプタ（別売り）
- ・セカンドバッテリー（別売り）

何も装着しないときのためにセレクタブルベイカバーにウェイトセーバを取り付けて装着できます。



**注意** ・安全のために、セレクタブルベイには機器（CD-ROM 装置、フロッピーディスク装置、セカンドハードディスクアダプタ、セカンドバッテリーパック）またはセレクタブルベイカバーにウェイトセーバを取り付けたもののいずれかを装着してお使いください。



お願い

・Windows NT4.0 上でパソコンの電源を入れたままセレクタブルベイ機器の取り付け / 取りはずしを行う場合には、「東芝セレクタブルベイサービス for Windows NT 4.0」をインストールする必要があります。本ユーティリティをインストールしないで、パソコンの電源を入れたままセレクタブルベイ機器の取り付け / 取りはずしを行うと、データが壊れることがあります。

### ● セレクタブルベイ機器の差し替え

「東芝セレクタブルベイ・ユーティリティ」や「東芝セレクタブルベイサービス for Windows NT 4.0」を利用すると、電源を入れたままセレクタブルベイ機器の取り付け / 取りはずしをすることができます。

Windows 2000 の場合、これらのユーティリティはありませんが、電源を入れたままセレクタブルベイ機器の取り付け / 取りはずしをすることができます。

☞ 「本節 セレクタブルベイ機器の差し替え（Windows 2000）」

「東芝セレクタブルベイ・ユーティリティ」は、本製品の Windows 98 / 95 モデルには出荷時にインストールされています。アンインストールした場合は、次の手順でセレクタブルベイ機器の取り付け / 取りはずしを行なってください。

「東芝セレクタブルベイサービス for Windows NT 4.0」を Windows NT モデルにインストールすると、電源を入れたままセレクタブルベイ機器の取り付け / 取りはずしをすることができます。

☞ 「東芝セレクタブルベイ・ユーティリティ」を使った差し替え

☞ 「本節 東芝セレクタブルベイ・ユーティリティ（Windows 98 / 95）」

☞ 「本節 東芝セレクタブルベイサービス for Windows NT 4.0」

インストールしない場合は次の手順でセレクタブルベイ機器の取り付け / 取りはずしを行なってください。

**1** データを保存し、アプリケーションを終了する

**2** パソコン本体の電源を切る

☞ 電源の切り方について ☞ 「2 章 3 電源を切る」

**3** パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブルをはずす

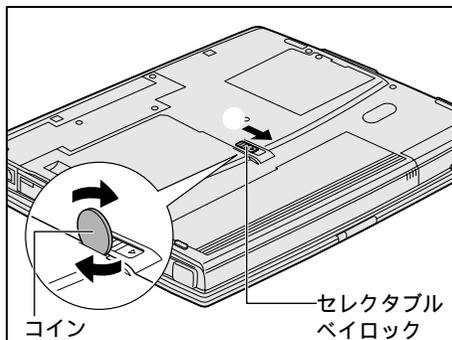
#### 4 パソコン本体を裏返す



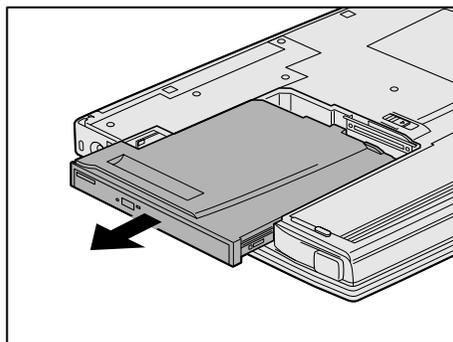
・パソコン本体を裏返すときは、衝撃を与えないよう注意してください。

お願い

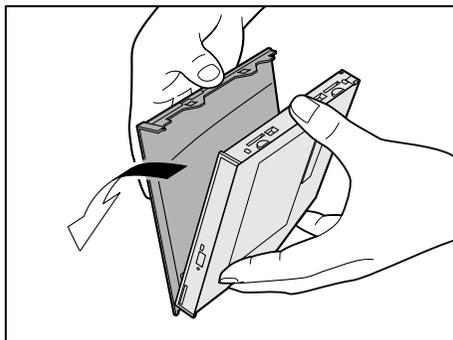
- 5 セレクタブルベイロックを解除し、コインなどでセレクタブルベイを押し出す  
セレクタブルベイから機器が少し出てきます。



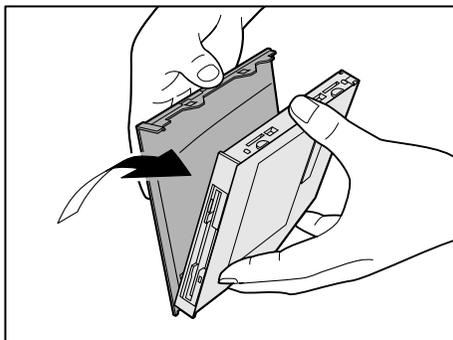
- 6 装着されていたセレクタブルベイ機器を  
しっかりつかんで引き出す  
装置は水平に引き出してください。



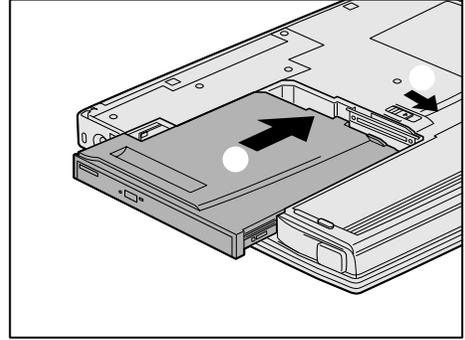
- 7 取り出したセレクタブルベイ機器からセ  
レクタブルカバーを取りはずす



- 8 取り付けるセレクタブルベイ機器にセレ  
クタブルカバーを取り付ける



- 9 セレクタブルベイロックを解除した状態にして、セレクタブルベイに装着する機器を裏返し、しっかり差し込む



- 10 セレクタブルベイロックがロック位置になっていることを確認する

## ● 東芝セレクタブルベイ・ユーティリティ (Windows 98 / 95)

このユーティリティは、パソコン本体の電源を入れたまま、セレクタブルベイ機器の取り付け / 取りはずしを可能にします。



お願い

・東芝セレクタブルベイ・ユーティリティを使ってセレクタブルベイ機器の取り付け / 取りはずしを行う場合は、パネルスイッチ機能を無効にしてから行なってください。保存していないデータが消失する可能性があります。



メモ

・セレクタブルベイに装着している機器が最優先起動装置に設定されている場合、その装置を取りはずそうとすると、警告のウィンドウが表示されます。

東芝セレクタブルベイ・ユーティリティを使用してセレクタブルベイ機器の取り付け / 取りはずしをするには、次の手順で操作します。

- 1 Disk  LED および Selectable Bay  LED が消灯していることを確認する
- 2 タスクバーにある東芝セレクタブルベイアイコン (  ) をクリックする
- 3 [ セレクタブルベイからデバイスを取り出す ] をクリックする  
セレクタブルベイ機器が安全に取り出せることを確認するメッセージが表示されます。
- 4 [ OK ] ボタンをクリックする
- 5 セレクタブルベイ機器を取り出す
- 6 セレクタブルベイに何も装着しない場合は、セレクタブルベイカバーにウェイトセーバを取り付けたものを取り付ける  
セレクタブルベイ機器を取り付ける場合は、しっかりと奥まで差し込む

セレクタブルベイ機器の差し替えが完了しました。



メモ

・東芝セレクタブルベイ・ユーティリティは手順2の代わりに[ コントロールパネル ]にある[ 東芝セレクタブルベイ ] アイコンをダブルクリックする方法でも使用できます。

## ● セレクタブルベイ機器の差し替え (Windows 2000)

パソコン本体の電源を入れたまま、セレクタブルベイ機器の取り付け / 取りはずしをするには、次の手順で操作します。



お願い

- ・パソコン本体の電源を入れたままセレクタブルベイ機器の取り付け / 取りはずしを行う場合は、パネルスイッチ機能を無効にしてから行なってください。保存していないデータが消失するおそれがあります。

### 1 アプリケーションを終了する

### 2 Disk LED、Selectable Bay LED、フロッピーディスク装置の LED が消灯していることを確認する

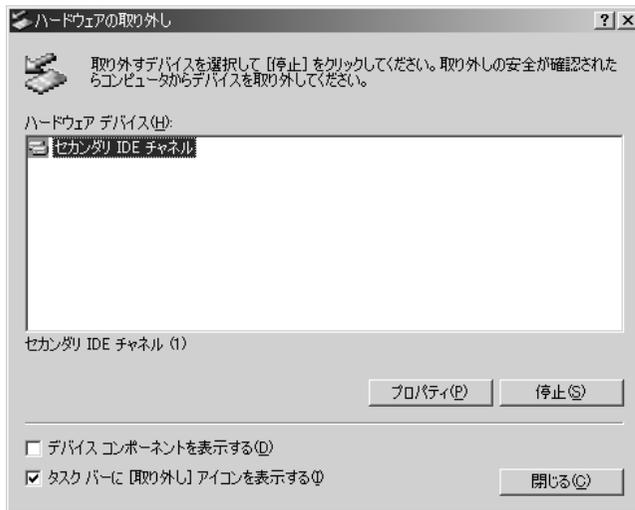


メモ

- ・フロッピーディスク装置、セカンドバッテリー、ウェイトセーバを取り出すときは、3 以降の操作は不要です。「本節 セレクタブルベイ機器の差し替え」の手順 4 ~ 10 の操作を行なってください。

### 3 タスクバーにある [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン ( ) を右クリックし、表示されるメニューの [ハードウェアを取り外すかまたは取り出す] をクリックする

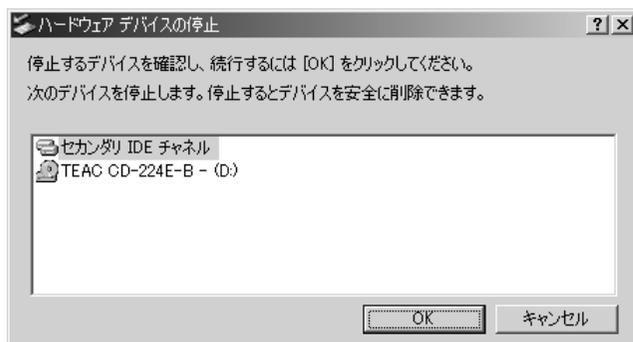
次の画面が表示されます。



(表示例)

**4** [停止] ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。



(表示例)

**5** [OK] をクリックする

次の画面が表示されます



(表示例)

**6** [OK] をクリックする**7** 「本節 セレクタブルベイ機器の差し替え」の手順 4 ~ 10 を行う

[マイコンピュータ]などで、取り付けたセレクタブルベイ機器のアイコンが表示されていることを確認してください。アイコンが表示されるとセレクタブルベイ機器が使用できるようになります。



メモ

- ・ハードディスク装置、または CD-ROM 装置は、取り付けたときアイコンが表示されます。フロッピーディスク装置は、接続していなくてもアイコンは表示されたままです。

## ● 東芝セレクトابلベイサービス for Windows NT 4.0

この機能をインストールすると、Windows NT を使用している場合に、パソコン本体の電源を入れたままでのセレクトابلベイ機器の取り付け / 取りはずしが可能になります。インストール / アンインストールの方法については、アプリケーション CD-ROM の Tselect フォルダにある readme.txt を参照してください。



お願い

・東芝セレクトابلベイ・ユーティリティを使ってセレクトابلベイ機器の取り付け / 取りはずしを行う場合は、パネルスイッチ機能を無効にしてから行なってください。保存していないデータが消失する可能性があります。

東芝セレクトابلベイサービス for Windows NT 4.0 を使用してセレクトابلベイ機器の取り付け / 取りはずしをするには、次の手順で操作します。

**1** 開いているアプリケーションを終了する

**2** Disk LED、Selectable Bay LED、フロッピーディスク装置の LED が消灯していることを確認する

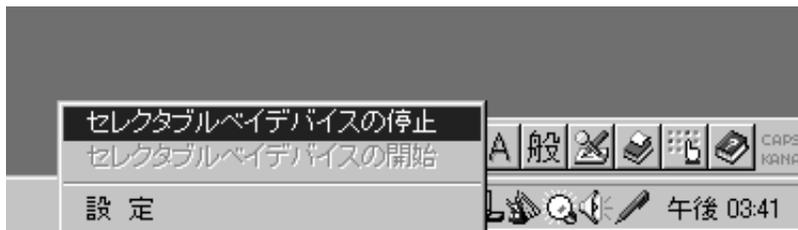


メモ

・フロッピーディスク装置、セカンドバッテリー、ウェイトセバを取り出すときは、3 ~ 5 の操作は不要です。「本節 セレクトابلベイ機器の差し替え」の手順 4 ~ 10 の操作を行なってください。

**3** タスクバー上の東芝セレクトابلベイサービスアイコン (  ) をクリックする

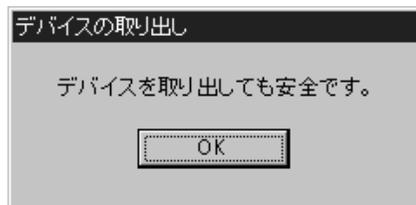
次の画面が表示されます。



(表示例)

**4** [セレクトابلベイデバイスの停止] をクリックする

次の画面が表示されます。



**5** [OK] ボタンをクリックする

**6** 「本節 セレクトابلベイ機器の差し替え」の手順 4 ~ 10 の操作を行う

# 3 マウスの接続

本製品では、次のような市販のマウスを接続して使用することができます。  
マウスの種類によって、接続するコネクタが異なります。

- ・PS/2 マウス
- ・USB マウス (Windows NT ではサポートしておりません)
- ・シリアルマウス

☞ USB マウスの接続 ⇨ 「本章 10 USB 機器の接続」

 **注意** ・USB マウス以外のマウスを接続する場合には、必ず電源を切ってから行なってください。電源を入れたまま接続すると、故障のおそれがあります。

## 1 PS/2 マウス

 **注意** ・PS/2 マウスを接続する場合には、必ず電源を切ってから行なってください。電源を入れたまま接続すると、故障のおそれがあります。

### ● 取り付け

- 1 PS/2 コネクタに、PS/2 マウスのプラグを差し込む  
接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

### ● 取りはずし

- 1 パソコン本体に差し込んである PS/2 マウスのプラグを持って抜く

## ② シリアルマウス



**注意** ・シリアルマウスを接続する場合には、必ず電源を切ってから行なってください。電源を入れたまま接続すると、故障のおそれがあります。

### ● 取り付け

- 1 COMMS コネクタに、シリアルマウスのプラグを差し込む  
接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

### ● 取りはずし

- 1 パソコン本体に差し込んであるシリアルマウスのプラグを持って抜く

### ● シリアルマウスの設定方法

シリアルマウスを接続するときは、次の手順に従って操作してください。

#### ● Windows 98 / 95 / 2000 の場合

パソコン本体の電源を切って、マウスを接続してください。  
接続後、パソコン本体の電源を入れると、シリアルマウスが自動的に認識されます。  
シリアルマウスとアキュポイントが同時に使えるようになります。

#### ● Windows NT の場合

パソコン本体の電源を切って、マウスを接続してください。  
接続後、パソコン本体の電源を入れると、シリアルマウスが自動的に認識されます。  
表示される画面に従ってください。  
シリアルマウスとアキュポイントが同時に使えるようになります。  
上記の手順で認識されない場合は、次の操作を行ってください。

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- 2 [マウス]をダブルクリックする
- 3 [デバイス]タブで[デバイスの変更]ボタンをクリックする
- 4 [デバイス情報]のメニューからCOMMS コネクタに接続したデバイスを選択する
- 5 [適用]ボタンをクリックする

# 4 フロッピーディスク装置

本製品には標準で外付けフロッピーディスク装置が用意されています。  
装置をセレクトابلベイに取り付けて、内蔵フロッピーディスクとしても使用できます。  
☞ セレクトابلベイ機器の差し替え方法 ☞ 「本章 2 セレクトابلベイ機器の差し替え」

## 1 外付けフロッピーディスク装置の取り付け / 取りはずし

- 注意**
- ・フロッピーディスク装置の上にものを置いたり、無理な力を加えないでください（動作時も含む）。データやフロッピーディスク、フロッピーディスク装置が壊れる可能性があります。
  - ・フロッピーディスク装置を接続する場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。  
電源を入れたままで接続すると、感電、故障のおそれがあります。
  - ・FDD LED が点灯中は、電源を切ったり、フロッピーディスク装置のイジェクトボタンを押したりしないでください。  
また、フロッピーディスク装置接続ケーブルをはずさないでください。データが消失するおそれや、フロッピーディスク装置が壊れるおそれがあります。
  - ・フロッピーディスク装置を、斜めや垂直に置いた状態で使用しないでください。必ず水平に置いて使用してください。  
データの消失やフロッピーディスク、フロッピーディスク装置、パソコン本体が壊れる可能性があります。



お願い

- ・フロッピーディスク装置とパソコン本体を持ち運ぶときは、外付けフロッピーディスク装置をパソコン本体から取りはずしてください。

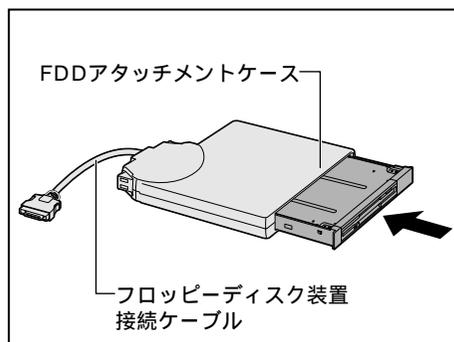


メモ

- ・外付けフロッピーディスク装置は、スタンバイ（Windows 95 / NTの場合はサスペンド）機能やハイバネーション機能を設定した状態で取り付け / 取りはずしをすることができます。
- ・FDD アタッチメントケースはフロッピーディスク装置専用です。

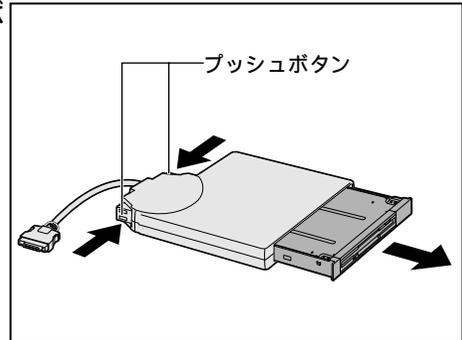
## FDD アタッチメントケースの取り付け

- 1 フロッピーディスク装置を FDD アタッチメントケースに差し込む



## FDD アタッチメントケースの取りはずし

- 1 FDD アタッチメントケースのプッシュボタンを左右から押す  
フロッピーディスク装置が少し出てきます。

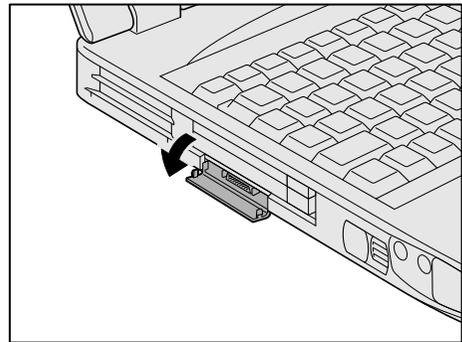


- 2 FDD アタッチメントケースからフロッピーディスク装置を引き出す

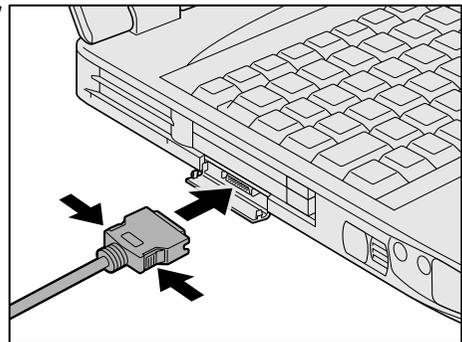
## 外付けフロッピーディスク装置の取り付け

取り付けの前に、FDD アタッチメントケースにフロッピーディスク装置が入っているのを確認してください。

- 1 データを保存し、アプリケーションを終了する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体のフロッピーディスク装置接続コネクタのカバーを開く



- 4 FDD アタッチメントケースのコネクタラッチを押しながら、フロッピーディスク装置接続コネクタに接続する



・コネクタの上下を間違えると接続できません。接続できないときは、向きを確認してください。

お願い

## ● 外付けフロッピーディスク装置の取りはずし

- 1 データを保存し、アプリケーションを終了する
- 2 パソコン本体の電源を切る  
☞ 電源の切り方について ☞ 「2章 3 電源を切る」
- 3 FDDアタッチメントケースのコネクタラッチを押し、コネクタを取りはずす
- 4 パソコン本体のフロッピーディスク装置接続コネクタのカバーを閉じる

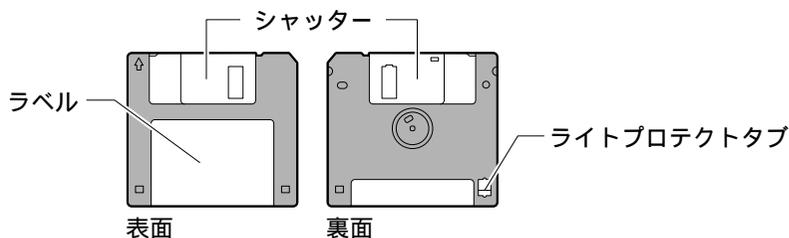
## ② フロッピーディスク

使用できるフロッピーディスクの種類と、保存できる容量は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量
2DDタイプ	720KB
2HDタイプ	1.2MB
2HDタイプ	1.44MB

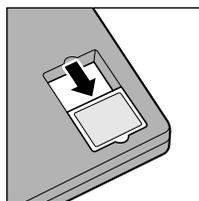
1枚あたりに保存できる容量は、フォーマットのとくに指定します。

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。



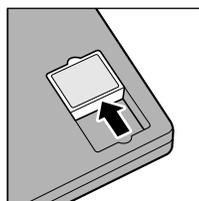
ライトプロテクトタブの状態、次のようになります。

### ● ライトプロテクトタブの状態



#### 書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。  
この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みはできません。  
データの読み取りはできます。



#### 書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。  
この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りもできます。

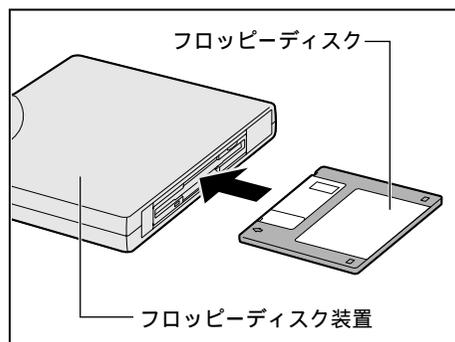
☞ フロッピーディスクの使用について ☞ 「日常の取り扱い-フロッピーディスク」

### ③ フロッピーディスクのセットと取り出し

フロッピーディスクをフロッピーディスク装置に挿入することを「フロッピーディスクをセットする」といいます。

#### ● フロッピーディスクのセット

- 1 フロッピーディスクの隅にかかっている矢印の向きに合わせて挿入する  
「カチッ」と音がするまで挿入します。正しくセットされるとイジェクトボタンが出てきます。



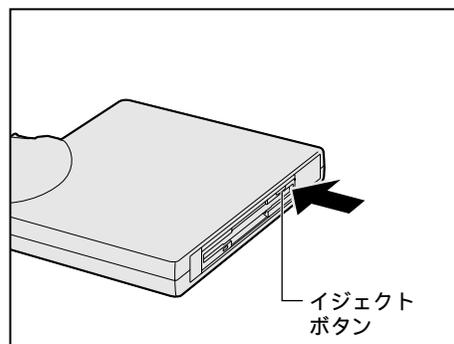
#### ● フロッピーディスクの取り出し



お願い

・FDD LED、Selectable Bay  LED が点灯している場合は、フロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内のデータが壊れることがあります。

- 1 イジェクトボタンを押す  
フロッピーディスクが少し出てきます。そのまま手で取り出します。



## 4 フロッピーディスクのフォーマット

買ってきたばかりの新品のフロッピーディスクは、箱から出してそのまますぐ使うことはできません。使用するシステムにあわせて「フォーマット」という作業を行う必要があります。

フォーマットを行うと、フォーマットを行なったシステムにあわせて、データの記憶や読み出しができるようにトラック番号やヘッド番号などの基本情報が書き込まれます。新品のフロッピーディスクは、どんなシステムに使われるかわからないためフォーマットを行わずに出荷されています。新品のフロッピーディスクを使用する場合は、必ずフォーマットを行なってください。

他のシステムで使われていたフロッピーディスクも、もう1度本製品でフォーマットすることにより、本製品で使用することができます。



お願い

- ・フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

### ● フロッピーディスクのフォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。



メモ

- ・他社のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクの中には使用できないものがあります。
- ・2HD フロッピーディスクを2DDタイプでフォーマットしたり、またその逆でのフロッピーディスクの使用はできません。正しくフォーマットされているフロッピーディスクを使用してください。
- ・Windows 98 / 95 の場合、フォーマット形式は、2DD の場合は720KB、2HD の場合は1.44MB のみになります。

- 1 フォーマットするフロッピーディスクをセットする
- 2 デスクトップ上の [マイ コンピュータ] アイコンをダブルクリックする
- 3 [3.5 インチ FD (A:)] のアイコンをクリックする  
[3.5 インチ FD (A:)] のアイコンが選択され、アイコンの色が反転します。
- 4 [ファイル (F)] メニューの [フォーマット (M)] (    )  
[フォーマット (A)] (  ) を選択する

## 5 フォーマット方法を選択し、フォーマットを行う

未フォーマットのフロッピーディスクを使用して、フォーマットや起動ディスクの作成をする場合、かなり時間がかかることがあります。



フォーマット方法を選択し、[ 開始 ] ボタン (  ) [ スタート ] ボタン (  ) をクリックする



\* 画面は Windows 98 の場合です。

フォーマットが開始されます。

フォーマットが終了すると、フロッピーディスクの情報が表示されますので、確認してください。

[ フォーマット結果 ] の内容を確認し、[ 閉じる ] ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順 5 から実施します。

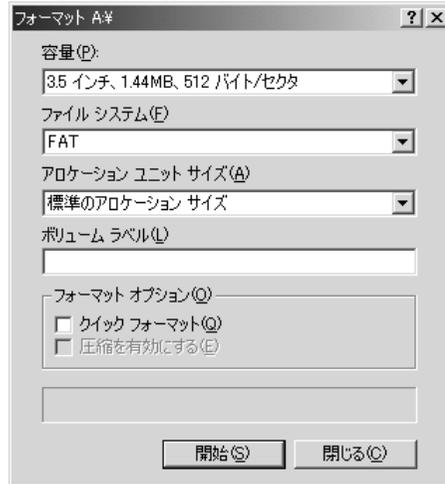
フォーマットを終了する場合は、[ 閉じる ] ボタンをクリックします。

**2000** **NT**

必要に応じて、[容量]や[フォーマットオプション]を設定し、[開始]ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

フォーマットが終了すると、「フォーマットが完了しました。」というメッセージが表示されます。



\*画面は Windows 2000 の場合です。

[OK]ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順5から実施します。

フォーマットを終了する場合は、[閉じる]ボタンをクリックします。

# 5 CD-ROM 装置

## 1 CD

使用できる CD は、次の種類です（読み込みのみ可能です）。

音楽用 CD

8cm、12cm の音楽用 CD が聴けます。

フォト CD

CD-ROM

使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのもので使用できます。

CD エクストラ

CD-R

CD-RW

☞ CD-ROM の使用について ☞ 「日常の取り扱い-コンパクトディスク」



メモ

・CD-R、CD-RW は、メディアの特性や書き込み時の特性によって、読み込めない場合もあります。

## 2 CD のセットと取り出し



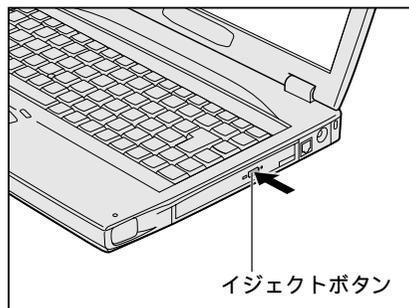
注意

- ・ディスクトレイ内のレンズに触れないでください。CD-ROM 装置の故障の原因になります。
- ・Selectable Bay  LED および CD-ROM 装置のインジケータが点灯しているときは、CD-ROM が動作しています。このときはイジェクトボタンを押さないでください。CD または CD-ROM 装置の故障の原因となります。



お願い

- ・パソコン本体を携帯するときは、CD-ROM 装置に CD が入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。



メモ

- ・CD は、電源が入り、Selectable Bay  LED が消灯しているときにセット / 取り出しができます。
- ・次の場合は、ディスクトレイはイジェクトボタンを押しても出てこない、またはすぐには出てきません。
  - 電源を入れた直後
  - リセットした直後
  - ディスクトレイを閉じた直後これらの場合には、CD-ROM 装置のインジケータの点滅が終了したことを確認してから、イジェクトボタンを押してください。
- ・Windows が起動したとき、Selectable Bay  LED が周期的に薄く点灯します。これは CD の自動挿入を検出しているため、故障ではありません。

## ● CD のセット

CD-ROM 装置へ CD をセットするには、次のように行います。

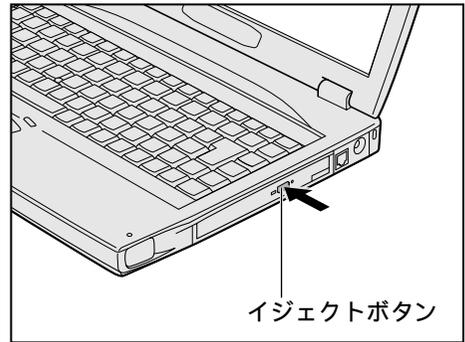
### 1 パソコン本体の電源を入れる



・電源が入っていないと、イジェクトボタンを押しても、ディスクトレイは出てきません。

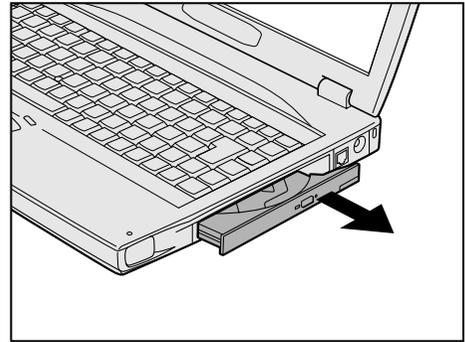
### 2 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを押したら、ボタンから手を離してください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

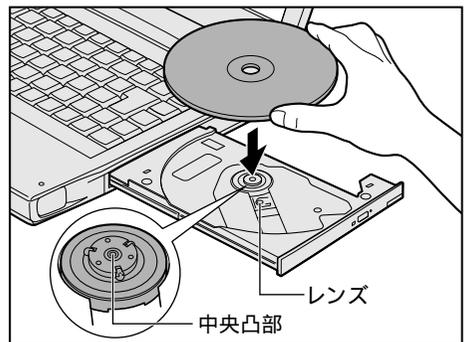


### 3 ディスクトレイを引き出す

CD をのせる面がすべて出るまで、引き出します。

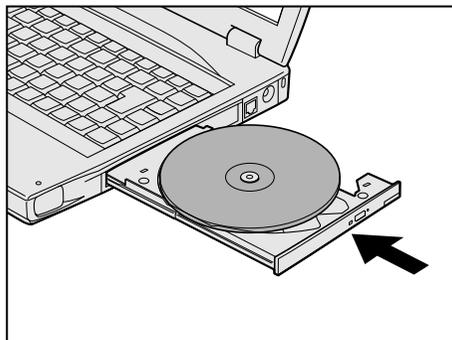


### 4 文字が書いてある面を上にして、CD の穴の部分をディスクトレイの中央凸部分に合わせ、上から押さえてセットする カチッと音がして、セットされていることを確認してください。



- 注意** ・ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。CD-ROM 装置の故障の原因になります。
- ・CD をディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
  - ・CD を正しくディスクトレイにセットしないと、CD を傷つけることがあります。

- 5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイをCD-ROM装置に押し戻す



## ● CDの取り出し

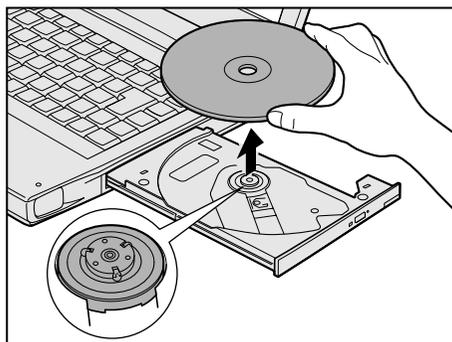
**!** 注意 ・Selectable Bay  LEDおよびCD-ROM装置のインジケータが点灯しているときは、CDを取り出さないでください。CDのデータやCD-ROM装置がこわれるおそれがあります。



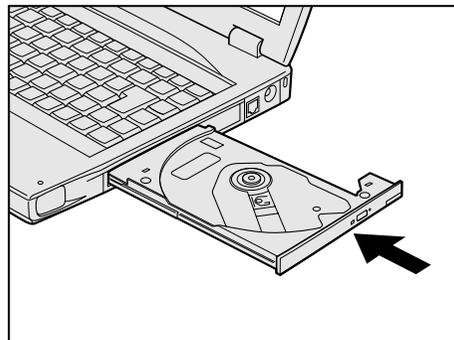
お願い

・パソコン携帯時は、CD-ROM装置に入っているCDは取り出してください。

- 1 パソコン本体の電源を入れる
- 2 イジェクトボタンを押す  
ディスクトレイが少し出てきます。
- 3 ディスクトレイを引き出す  
CDをのせる面がすべて出るまで、引き出します。
- 4 CDの両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す  
ディスクトレイからCDを取り出します。  
CDを取り出しにくいときは、中央凸部を少し押ししてください。簡単に取り出せるようになります。

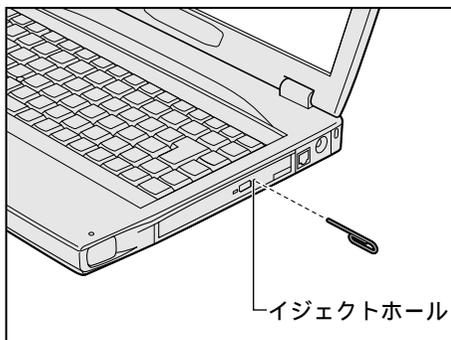


## 5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



メモ

- ・電源を切っているときにイジェクトボタンを押しても、ディスクトレイは出てきません。故障などで電源が入らない場合は、CD-ROM 装置のイジェクトホールを、先の細い、丈夫なもの（例えば、クリップを伸ばしたもの）で押してください。ディスクトレイが出てきます。



- 注意** ・電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中の CD のデータや CD-ROM 装置がこわれるおそれがあります。

# ⑥ ハードディスク装置

ハードディスクには、標準で内蔵されているメインハードディスクのほかに、セレクトラブルベイに取り付けるセカンドハードディスク装置（別売り）があります。セカンドハードディスク装置（別売り）を使用するには、セカンドハードディスクアダプタ（別売り）が必要です。



お願い

- ・ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化/消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクなどに保存しておいてください。また、ハードディスクのバックアップを取ることをおすすめします。データの変化/消失など、ハードディスクやフロッピーディスクに記録された内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。  
☞ バックアップの方法 ☞ 『システムに付属の説明書』
- ・Disk LED、Selectable Bay LED が点灯しているときは、電源を切ったり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データが変化/消失するおそれがあります。
- ・落とす、ぶつけるなど強いショックを与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷がついて、使えなくなることがあります。磁性面についた傷の修理はできません。

## ① メインハードディスク装置

### ● 取りはずし / 取り付け

**1** データを保存し、アプリケーションを終了する

**2** パソコン本体の電源を切る

スタンバイ機能 ( )、サスペンド機能 ( )、ハイバネーション機能 ( ) は、使用しないでください。

☞ 電源の切り方について ☞ 「2章 3 電源を切る」

**3** パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブルをはずす

**4** パソコン本体を裏返す



お願い

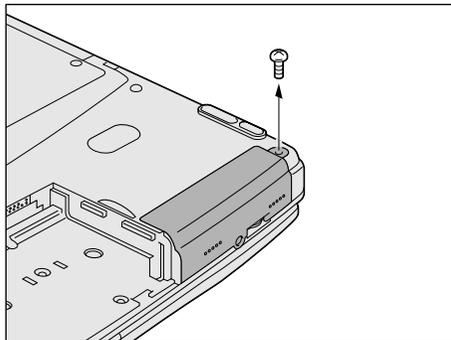
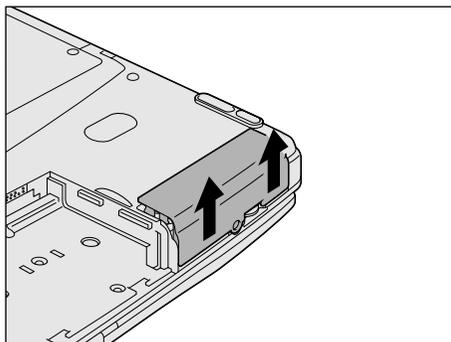
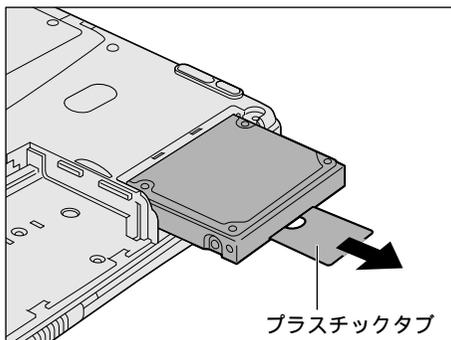
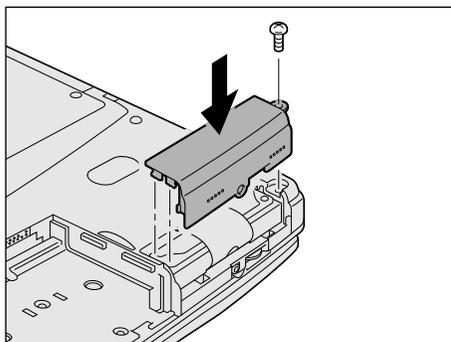
- ・パソコン本体を裏返すときは、衝撃を与えないよう注意してください。

**5** バッテリーパックをはずす

セカンドバッテリーを取り付けている場合は、セカンドバッテリーも取りはずしてください。

☞ メインバッテリーパックの取りはずし方 ☞ 「3章 1-4 メインバッテリーパックを交換する」

☞ セカンドバッテリーパックの取りはずし方 ☞ 「4章 2 セレクトラブルベイ機器の差し替え」

**6** HDD セキュリティカバーのネジをはずす**7** HDD セキュリティカバーをはずす  
図の矢印の位置を押して、取りはずしてください。**8** ハードディスク装置を取り出す  
プラスチックタブを持って、ゆっくりと手前に引き出してください。**9** 交換するハードディスク装置を差し込む  
プラスチックタブが外に出るようにハードディスク装置を差し込んでください。**10** ハードディスク装置をパソコン本体に押し込み、プラスチックタブはハードディスク上面のすきまに入れる**11** HDD セキュリティカバーを取り付ける  
HDD セキュリティカバーのツメをパソコン本体に差し込むようにして取り付けてください。

## 12 HDD セキュリティカバーのネジを取り付ける

 **注意** ・ハードディスク装置とHDDセキュリティカバーは、しっかりと取り付けられているかどうか、必ず確認してください。正しく取り付けられていないと、持ち運びのときにハードディスク装置がはずれ落ちて、思わぬケガのおそれがあります。

## 13 バッテリパックを取り付ける



メモ

・初めて使用するハードディスク装置の場合は、パーティションの設定やドライブのフォーマットが必要です。

☞ 「本節 3 ハードディスク装置の設定」

## ② セカンドハードディスク装置

セカンドハードディスク装置（別売り）を使用するには、セカンドハードディスクアダプタ（別売り）が必要です。

☞ セカンドハードディスクアダプタの取り付け / 取りはずしについて

☞ 「本章 2 セレクタブルベイ機器の差し替え」

『セカンドハードディスクアダプタに付属の取扱説明書』

セカンドハードディスク装置は、ご使用になる前にパーティションの設定とドライブのフォーマットを行なってください。出荷時にはパーティションの設定およびフォーマットはされておりません。

☞ パーティションの設定とドライブのフォーマット ☞ 「本節 3 ハードディスク装置の設定」

### 3 ハードディスク装置の設定

何もインストールされていないハードディスク装置を交換 / 増設した後、システムに認識させるには、次の操作が必要です。

#### Windows 98 / 95 の場合

ここではWindows 98 を例に説明します。

- 1 Windows を起動し、[ スタート ] メニューから [ プログラム ] - [ MS-DOS プロンプト ] を選択する  
[MS-DOS プロンプト]画面が表示されます。
- 2 FDISKと入力し、 キーを押す  
次の画面が表示されます。

512MB以上のディスクがあります。このバージョンのWindowsでは、大容量のディスクのサポートが強化され、ディスク領域を有効に使えるようになりました。2GB以上のドライブを1つのドライブとしてフォーマットできます。

重要：大容量ディスクのサポートを使用可能にして、このディスクに新しいドライブを作成した場合、ほかのオペレーティングシステムを使ってこの新しいドライブにアクセスすることはできません（Windows 95とWindows NTの特定のバージョン、以前のバージョンのWindowsとMS-DOSを含む）。また、FAT32ファイルシステム用に設計されていないディスクユーティリティは、正常に動作しません。このディスクで他のオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティにアクセスする必要がある場合、大容量ドライブのサポートは使用しないでください。

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N) .....?[N]

ここでは、ハードディスクを大容量で使用するためのFAT32というシステムを使用するかどうかを選択します。

FAT32 ファイルシステムを使用した場合の利点と制限事項は、次のようになっています。

2GBを超える大容量で、ハードディスクを使用できる

Windows 95 と Windows NT の特定のバージョン、また以前のバージョンのWindows と MS-DOS は使用できない

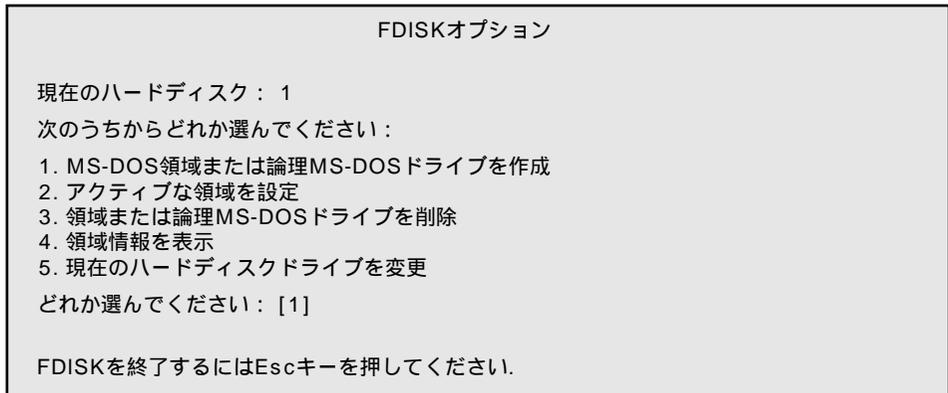
FAT32 ファイルシステムを使用しない場合は、上記の逆の状態になります。このハードディスクで他のシステム (OS) や以前のディスクユーティリティにアクセスする場合は、大容量ディスクのサポートを可能にしないでください。

使用するときは [ Y ] と入力します。

使用しないときは [ N ] と入力します。

以降の記述は、[ N ] を入力した場合を例にしています。

選択後、FDISK オプションが起動します。



メモ

・ハードディスクは1台しか使用していない場合は「5.現在のハードディスクドライブを変更」は表示されません。

3

[5] [Enter] とキーを押す

メニューの [ 5.現在のハードディスクドライブを変更 ] が選択されます。

4

[2] [Enter] とキーを押す

増設したディスク2のハードディスク装置が選択され、FDISK オプションの初期画面に戻ります。



メモ

・現在のハードディスク : 1 はパソコン本体のメインハードディスクを意味します。

5

[1] [Enter] とキーを押す

[ 1.MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成 ] が選択されます。

6

[2] [Enter] とキーを押す

[ 2.拡張 MS-DOS 領域を作成 ] が選択されます。

7

[Enter] キーを押す

拡張 MS-DOS 領域が作成されます。

8

[Esc] キーを押す

9

[Enter] キーを押す

拡張 MS-DOS 領域内に、論理 MS-DOS ドライブが作成されます。(ドライブ G ; に割り当てられます)

メインハードディスクが C : D : E : F : と割り当てられている場合、希望の数だけこの操作をくり返してください。

10

[Esc] キーを3回押し、FDISK オプションを終了する

11

EXITと入力し、[Enter] キーを押す

MS-DOS プロンプトが終了します。

**12** [スタート]メニューから [Windows の終了(U)] - [再起動する(R)] を選択し、[OK] を選択する  
システムが再起動します。

[マイコンピュータ] を起動し、増設したハードディスク (G :) が表示されていることを確認してください。



(注) 画面は一例です。

**13** [マイコンピュータ] 画面から [G:] ドライブを選択する

**14** [ファイル(F)] メニューから [フォーマット(M)] を選択する

[フォーマット] 画面が表示されます。タイトルバーに「フォーマット (G :)」と表示されていることを確認してください。



お願い

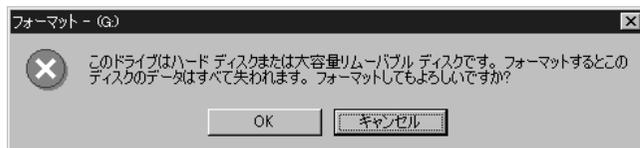
・ 選択するドライブを間違えないでください。フォーマットすると、ディスクの内容はすべて消去されてしまいます。



## 15 [フォーマットの種類] から [通常のフォーマット(F)] を選択し、[開始(S)] を選択する



警告のメッセージが表示されます。



## 16 確認し、[OK] を選択する

フォーマットが終了すると、結果が表示されます。確認して [閉じる] を選択してください。

フォーマット終了後、スキャンディスク（ディスクのエラーをチェックする機能）が起動します。スキャンディスクが必要な方はメッセージに従って操作してください。

同様に、[H:] ドライブに対してもフォーマットを行なってください。

以上で増設ハードディスク装置の設定が終了し、使用できるようになります。



お願い

- ・増設ハードディスク装置の設定終了後は、システムを再起動してください。
- ・セカンドハードディスクを基本 MS-DOS 領域と拡張 MS-DOS 領域で作成した場合、セカンドハードディスクのドライブは、基本領域が D:、拡張領域が H: に降りに割り当てられます。メインハードディスクのドライブは、D: が E:、E: が F:、F: が G: に変わります。そのため、例えば D: を参照するようなアプリケーションが動作しないことがあります。
- ・再起動後にロングファイル名が使用できない場合は、[マイコンピュータ] で新しいドライブを開き、[表示(V)] - [最新の情報に更新(R)] を選択してください。



メモ

- ・本記述は、メインハードディスクとセカンドハードディスク（別売り）を対象としています。2つのハードディスクは、購入時の状態を想定しています。

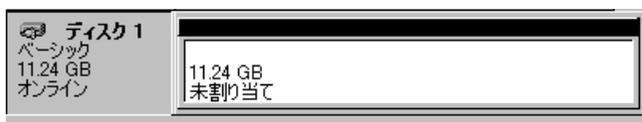
## Windows 2000 の場合

- 1 Windows 2000 を起動し、Administrators グループのユーザアカウントでログオンする
- 2 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル] をクリックする
- 3 [管理ツール] をダブルクリックし、[コンピュータの管理] をダブルクリックする
- 4 [記憶域]-[ディスクの管理] をクリックする  
ハードディスクを増設した後の最初の起動では、増設したハードディスク（例：ディスク1）は[不明]と表示されます。



(表示例)

- 5 [ディスク1] の領域を右クリックし、表示されるメニューで[署名] をクリックする
- 6 署名するディスクをチェックし [OK] をクリックする  
増設したハードディスク（例：ディスク1）は[ベーシック]と表示されます。



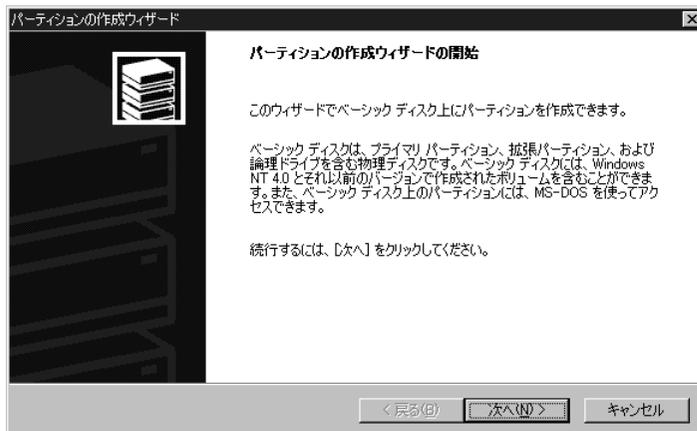
(表示例)

- 7 増設したハードディスク（例：ディスク1）の[未割り当て]の領域を右クリックする



(表示例)

## 8 表示されるメニューで [パーティションの作成] をクリックする [パーティションの作成ウィザード] が起動します。

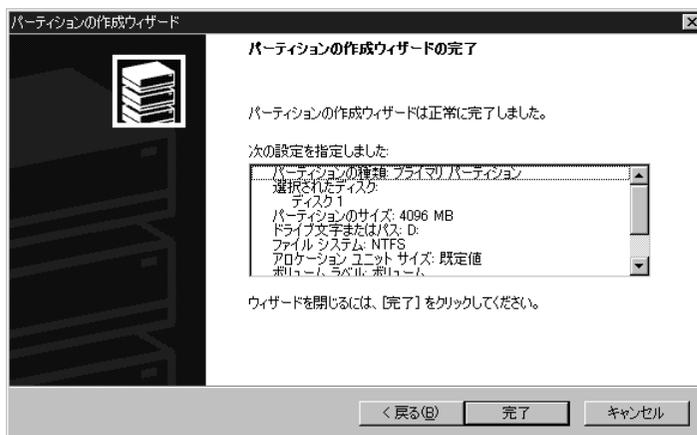


(表示例)

## 9 [次へ] をクリックし、ウィザードにしたがって設定する

- ・パーティションの種類
- ・パーティションサイズ
- ・ドライブ文字またはパスの割り当て
- ・フォーマット
- ・ファイルシステム

プライマリパーティション、または拡張パーティションの作成ができますが、ここではプライマリパーティションを 4GB・NTFS フォーマットで作成した場合を想定しています。設定が完了すると、確認画面が表示されます。

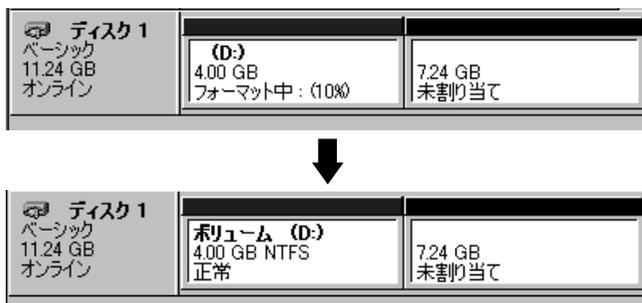


(表示例)

**10** 設定内容を確認し、[完了]をクリックする

フォーマットが開始されます。

パーティションのステータスが[正常]に変われば完了です。



(表示例)

詳細については「コンピュータの管理」のヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

[コンピュータの管理]-[操作]-[ヘルプ]をクリックする

**Windows NT の場合**

- 1 Windows NT を起動し、Administrator 権限でログオンする  
Administrator 権限のあるユーザ名、パスワードでログオンしてください。権限がない場合は、ネットワーク管理者に相談してください。

☞ 「2章 2-4 Windows NT のセットアップ」

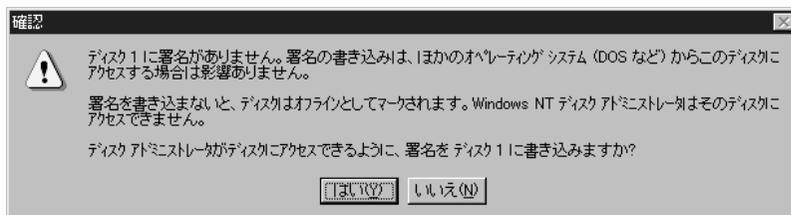
- 2 [スタート]メニューから[プログラム(P)]-[管理ツール(共通)]-[ディスクアドミニストレータ]をクリックする

ハードディスクを増設した後の最初の起動では、次のような画面が表示されます。



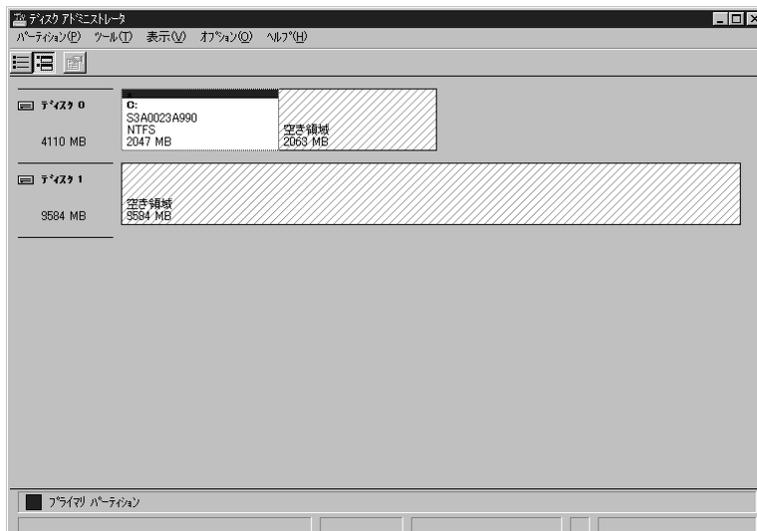
- 3 [OK] ボタンをクリックする

次のような画面が表示されます。



## 4 [はい(Y)] ボタンをクリックする

[ ディスクアドミニストレータ ] の画面が表示されます。



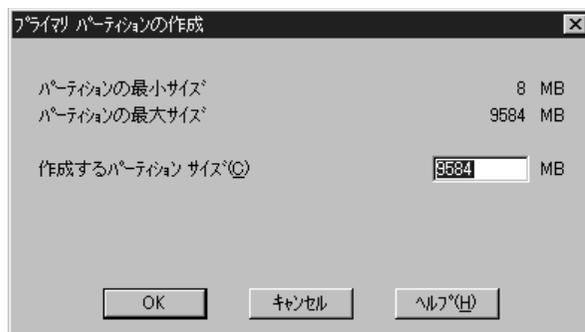
(表示例)

5 増設したハードディスク (例 : ディスク 1) の「空き領域」をクリックする  
「空き領域」全体が黒い太線で囲まれます。

6 メニューの [パーティション(P)] - [作成(C)] をクリックする

[パーティション(P)] - [拡張パーティションの作成(E)] をクリックすると拡張パーティションが作成できますが、ここでは [作成(C)] をクリックし、増設したディスク 1 にプライマリパーティション (D ドライブ) を作成する例を説明します。

[プライマリパーティションの作成] 画面が表示されます。



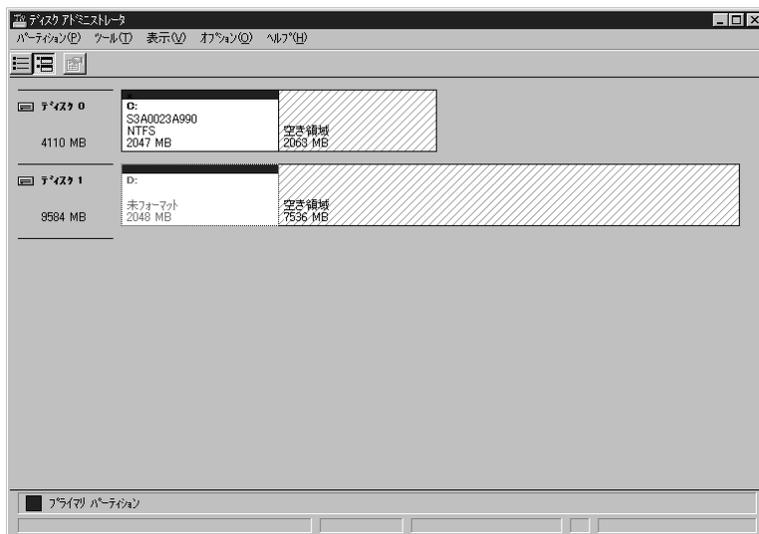
(表示例)

7 作成するパーティションサイズ (例 : 2048) を入力する

既定値として表示されている値は、ディスク 1 に作成可能な最大サイズが表示されています。ここでは、パーティションサイズとして 2048MB を指定する例を説明します。

**8** [OK] ボタンをクリックする

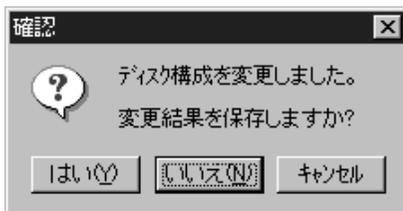
次のような画面が表示されます。



(表示例)

**9** [パーティション (P)] - [今すぐ変更を反映 (O)] をクリックする

次のような画面が表示されます。

**10** [はい (Y)] ボタンをクリックする

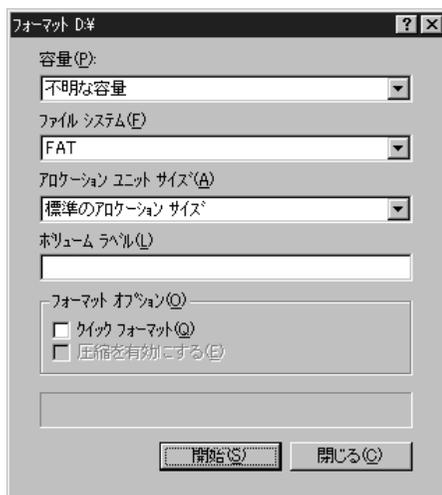
次のような画面が表示されます。ハードディスクのフォーマット作業が完了したら、システム修復ディスクの再作成を行なってください。

☞ システム修復ディスクの作成 ☞ 「2章 2-4 Windows NT のセットアップ」

**11** ディスク 1 の「D ドライブ」をクリックする

D ドライブ全体が太線で囲まれます。

- 12** [ ツール ( T ) ] - [ フォーマット ( F ) ] をクリックする  
[ フォーマット ] 画面が表示されます。



- 13** [ ファイルシステム ( F ) ] で FAT または NTFS を選択し、[ 開始 ( S ) ] を  
クリックする  
次のような確認画面が表示されます。

**!** 注意 ・フォーマットを開始すると、そのドライブのすべての情報 ( ファイル ) が消えます。



- 14** [ OK ] ボタンをクリックする  
フォーマットを開始します。  
フォーマットが完了すると次のような画面が表示されます。



- 15** [ OK ] ボタンをクリックし、画面を閉じる

- 16** [ フォーマット ] 画面の [ 閉じる ( C ) ] ボタンをクリックし、[ フォーマット  
画面を閉じる ]

以上でフォーマットは完了です。

ドライブ文字を変更する場合には、[ ツール ( T ) ] メニューの [ ドライブ文字の割り当て ( V ) ] を選択してドライブ文字を変更してください。

すべての作業が終了したら、ディスクアドミニストレータを終了してください。

# 7 PC カード

本製品には、PC カード（別売り）を取り付けることができます。



**注意** ・ホットインサクションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け/取りはずしを行なってください。電源を入れたまま作業を行うと、PCカードが故障するおそれがあります。



メモ

- ・市販されているPCカードには、自己発熱の大きいものがあります。このようなカードを長時間動作させていると、自己発熱の影響により、カードの動作が不安定になる場合があります。また、他のカードといっしょに使用すると、熱の影響により、他のカードの動作も不安定になる場合があります。
- ・ホットインサクション  
パソコン本体の電源を入れたままで、PCカードの取り付け/取りはずしをすることをいいます。ただし、PCカードによってはこの機能に対応していないものがあります。
- ・Windows NTをお使いの場合、「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」がインストールされていますので、ホットインサクションやプラグアンドプレイを行うことができます。ただし、PCカードによっては、これらの機能に対応していない場合があります。また、「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」をアンインストールした場合やこのユーティリティに対応していないPCカードの場合、ホットインサクションやプラグアンドプレイを行うことはできません。  
☞ 詳細について ☞ [スタート]-[プログラム]-[CardWizard for Windows NT]-[最初に必ずお読みください]

使用できるPCカードのタイプは、取り付けられるスロットによって異なります。

使用スロット	使用可能タイプ
1 (上側)	TYPE /
0 (下側)	TYPE / /

PCカードの例を次にあげます。

- モデムカード
- SCSI アダプタ
- フラッシュメモリ
- CardBus 対応カード



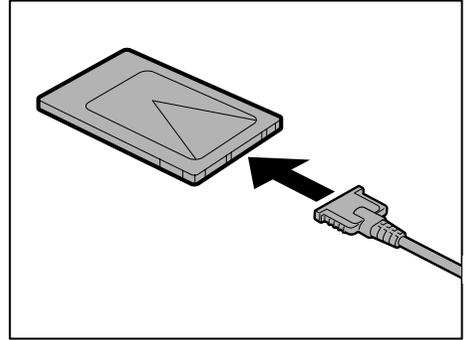
メモ

- ・スロット0にタイプ のPCカードを取り付けた場合は、スロット1にPCカードを取り付けることはできません。

☞ 『PCカードに付属の説明書』

## ● 取り付け

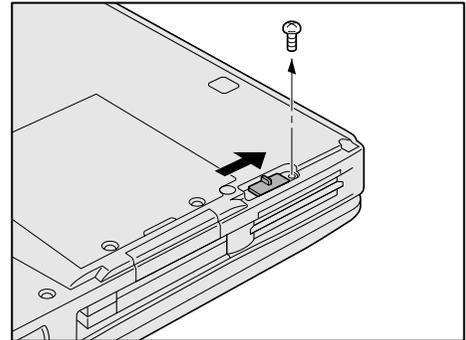
- 1 PCカードにケーブルを付ける  
モデムカードなど、ケーブルを接続することが必要なカードの場合は、この作業を行なってください。



お願い

- ・ケーブルを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

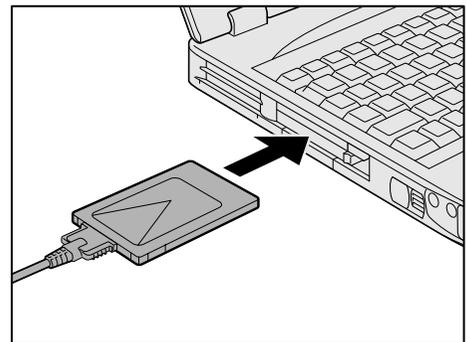
- 2 PCカードロックを解除する  
パソコン本体を裏返し、ネジをはずしてPCカードロックが奥側にあることを確認してください。手前側にある場合は、奥にスライドしてロックを解除してください。



お願い

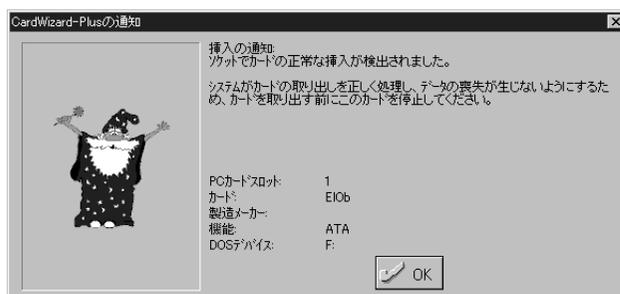
- ・パソコン本体を裏返すときは、衝撃を与えないよう注意してください。

- 3 上下や方向を確認し、PCカードを挿入する  
カードを確実に接続するために、無理な力を加えずに静かに押ししてください。



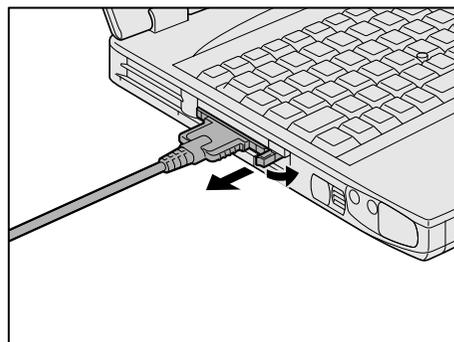
カードが十分に押し込まれたら、イジェクトボタンが出てきます。  
上のイジェクトボタンは、PCカードスロット1用です。下は、PCカードスロット0用です。

Windows NTの場合、PCカードを挿入すると、メッセージが表示されますので、[OK] ボタンをクリックしてください。

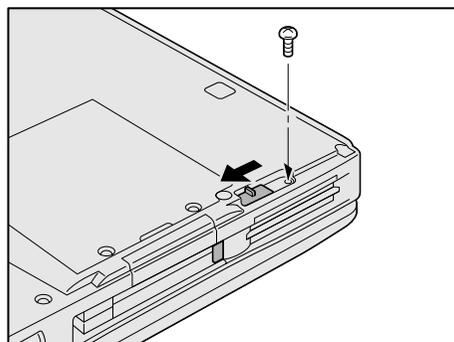


(表示例)

- 4** イジェクトボタンを手前に引き出し、右側に倒す  
PCカードが固定されます。



- 5** PCカードロックを有効（手前側）にし、ネジで固定する  
パソコン本体を裏返してロックしてください。カードを接続した後、カードを使用できる環境かどうかを確認してください。



お願い

・パソコン本体を裏返すときは、衝撃を与えないよう注意してください。

👉 カードの接続および環境の設定方法 ⇨ 『PCカードに付属の説明書』

## ● 取りはずし



注意

- ・PCカードの使用終了は必ず行なってください。使用終了せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。
- ・Windows NTの場合、PCカードが「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」に対応していない場合は、必ず電源を切ってからPCカードを取りはずしてください。



お願い

- ・PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してから取りはずしを行なってください。

### 1 PCカードの使用を終了する

98 95

タスクバーにある [ PCカード ] アイコン (  ) をダブルクリックする  
表示される画面で、終了する PC カードを選択し、[ 終了 ] ボタンをクリックする

2000

タスクバーにある [ ハードウェアの取り外しまたは取り出し ] アイコン (  ) を右クリックする  
表示されるメニューの [ ハードウェアを取り外すかまたは取り出す ] をクリックする  
表示される画面で、終了する PC カードを選択し、[ 停止 ] ボタンをクリックする  
表示される画面で、終了する PC カードを確認し、[ OK ] ボタンをクリックする

NT

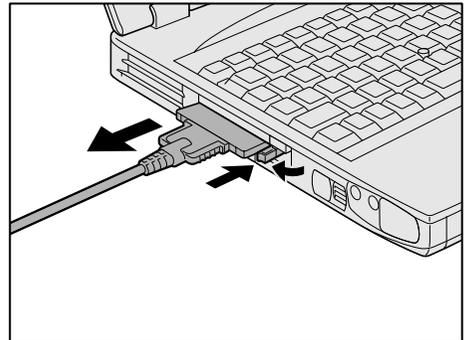
タスクバーにある [ CardWizard ] アイコン (  ) をダブルクリックする  
表示される画面で、終了する PC カードスロットを選択し、右クリックする  
表示されるメニューから [ 停止 ] ボタンをクリックする

### 2 PC カードロックを解除 ( 奥側 ) にする

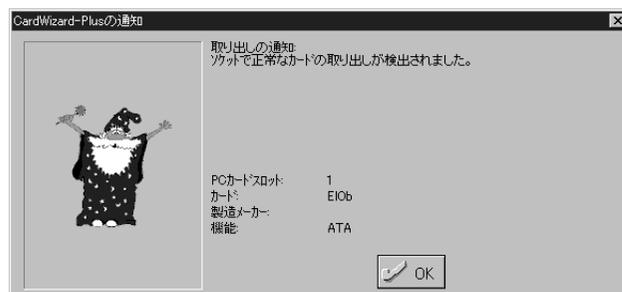
本体を裏返し、ネジをはずしてロックを奥にスライドしてからネジで固定してください。

### 3 取りはずしたいカードのイジェクトボタンを引き起こし、押す

カードが少し出てきます。

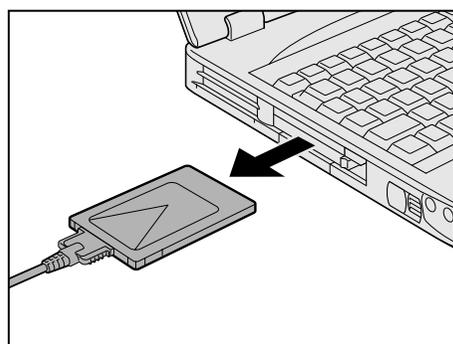


Windows NTの場合、PCカードを取りはずすと、メッセージが表示されますので、[OK] ボタンをクリックしてください。



(表示例)

#### 4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く



**注意** ・PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。

## ● PC カードをロックする

PC カードロックを使用することで PC カードが取りはずせないようにすることができます。PC カードを取り付け後、この操作を行なってください。  
またこの操作は必要なときのみ行なってください。

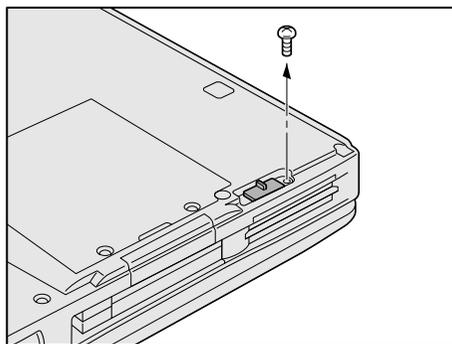
### 1 本体を裏返す



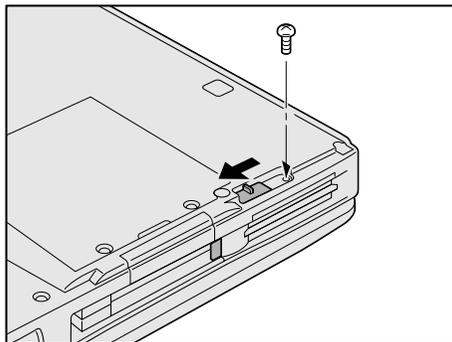
お願い

・パソコン本体を裏返すときは、衝撃を与えないよう注意してください。

### 2 PC カードロックのネジをはずす



### 3 PC カードロックを有効（手前側）にし、ネジで固定する



## 8 増設メモリ

本製品には、64MBのメモリが標準装備されています。

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、最大2枚の増設メモリが取り付けられます。ただし、スロットAには標準のメモリが取り付けられています。

別売りの増設メモリ（64、128MB）をスロットBに取り付け、また、スロットAの標準メモリと取り替えることで、最大256MBまで拡張することができます。



**警告** ・本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。



**注意** ・増設メモリの取り付け/取りはずしを行う場合は、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパック（メインバッテリーと、取り付けている場合はセカンドバッテリー）を取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け/取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。

- ・電源を切った直後には、増設メモリの取り付け/取りはずしを行わないでください。増設メモリスロット周辺が熱くなっているため、やけどのおそれがあります。増設メモリの取り付け/取りはずしは、電源を切った後30分以上たってから、行うことをおすすめします。
- ・増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。



お願い

- ・増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。
- ・スタンバイ機能（ ）、サスペンド機能（ ）、ハイバネーション機能（  ）を設定したまま、増設メモリの取り付け/取りはずしを行わないでください。  
スタンバイ、サスペンドまたはハイバネーション機能は無効になります。
- ・増設メモリは本製品で動作が保証されているものをご使用ください。  
それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。
- ・Windows 98 / 95 の場合、増設メモリの取り付け/取りはずしを行なったときは、ハイバネーション用のファイルを作成し直してください。

## ● 取り付け

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 パソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

☞ メインバッテリーパックの取りはずし方 ⇨ 「3章 1-4 メインバッテリーパックを交換する」

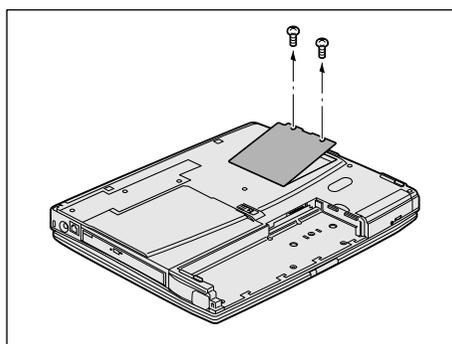
☞ セカンドバッテリーパックの取りはずし方 ⇨ 「本章 2 セレクタブルベイ機器の差し替え」



お願い

・パソコン本体を裏返すときは、衝撃を与えないよう注意してください。

- 4 増設メモリカバーのネジ 2 本をはずし、カバーをはずす



お願い

・ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。



警告

・ステーブル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。

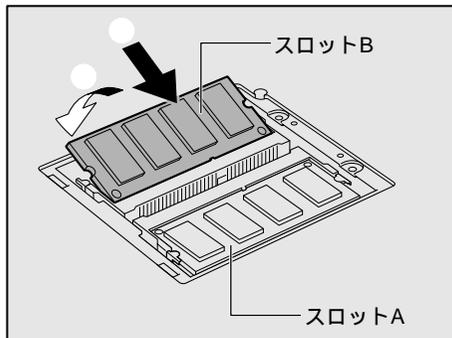


注意

・パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。

- 5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し、固定するまで増設メモリを倒す

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。



- 6 増設メモリカバーをつけて、手順 4 ではずしたネジ 2 本をとめる

## 7 バッテリパックを取り付ける

- ☞ メインバッテリーパックの取り付け方 ⇨ 「3章 1-4 メインバッテリーパックを交換する」
- ☞ セカンドバッテリーパックの取り付け方 ⇨ 「4章 2 セレクタブルベイ機器の差し替え」

パソコン本体の電源を入れたとき、合計のメモリ量が自動的に認識されます。合計のメモリ量が正しいかどうかを次の方法で確認してください。

  : PC 診断ツール

[スタート]-[プログラム]-[東芝ユーティリティ]-[PC 診断ツール]をクリックする

  : HW セットアップ

[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[HW セットアップ]をダブルクリックする

メモリスロット A には 64MB のメモリが取り付けられています。増設メモリはメモリスロット B に取り付けることができます。メモリスロット B のみにメモリが取り付けられている場合、パソコン本体は動作しません。必ずメモリスロット A にメモリが取り付けられた状態でご使用ください。

## 8 Windows 98 / 95 の場合、ハイバネーション用のファイルを作成し直す

- ☞ 「本節 ハイバネーション用のファイルを作成し直す」

### 取りはずし

#### 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

-  **注意** ・増設メモリの取り付け / 取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグを抜き、バッテリーパック（メインバッテリーと、取り付けられている場合はセカンドバッテリー）を取りはずしてから作業を行なってください。

#### 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

#### 3 パソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

- ☞ メインバッテリーパックの取りはずし方 ⇨ 「3章 1-4 メインバッテリーパックを交換する」
- ☞ セカンドバッテリーパックの取りはずし方 ⇨ 「本章 2 セレクタブルベイ機器の差し替え」



お願い

- ・パソコン本体を裏返すときは、衝撃を与えないよう注意してください。

#### 4 増設メモリカバーのネジ 2 本をはずし、カバーをはずす

-  **警告** ・ステーブル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。

-  **注意** ・パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。



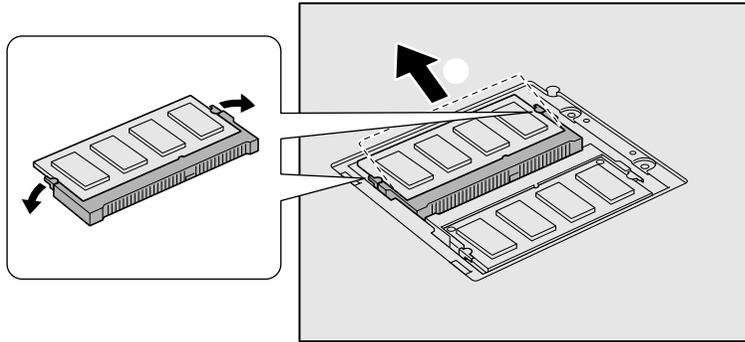
お願い

- ・ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

## 5 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き、増設メモリをパソコン本体から取りはずす

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

スロット A のメモリを取りはずした場合、スロット B のみに増設メモリを取り付けた状態で使用しないでください。正常に動作しないおそれがあります。スロット B の増設メモリをスロット A に取り付け直すか、スロット A に別の増設メモリを取り付けてください。



## 6 増設メモリカバーをつけて、手順 4 ではずしたネジ 2 本をとめる

## 7 バッテリーパックを取り付ける

☞ メインバッテリーパックの取り付け方 ⇨ 「3 章 1-4 メインバッテリーパックを交換する」

☞ セカンドバッテリーパックの取り付け方 ⇨ 「本章 2 セレクタブルベイ機器の差し替え」

## 8 Windows 98 / 95 の場合、ハイバネーション用のファイルを作成し直す

☞ 「本節 ハイバネーション用のファイルを作成し直す」

## ● ハイバネーション用のファイルを作成し直す

Windows 98 / 95 をご使用の場合、増設メモリを取り付け / 取りはずしをしたときに、ハイバネーション用のファイルを作成し直す必要があります。この操作を行わずにハイバネーション機能を利用すると、起動時にメッセージが表示される場合があります。次の手順に従って操作してください。

☞ ハイバネーション機能 ⇨ 「5 章-1 消費電力を節約する」

### 1 電源を入れ、[スタート]メニューから [Windows の終了 (U)] を選択する

### 2 [Windows の終了] 画面で [MS-DOS モードで再起動する (M)] (Windows 95 の場合は [MS-DOS モードでコンピュータを再起動する (M)]) を選択する



お願い

・[スタート]-[プログラム]-[MS-DOS プロンプト] からではファイルを作成し直すことができません。

### 3 H A L L O C Space / C と半角英数字で入力し、Enter キーを押す ハイバネーション用のファイルを作成し直します。

### 4 E X I T と半角英数字で入力し、Enter キーを押す

# 9 LAN の接続

本製品には、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T)に対応した LAN インタフェースが内蔵されています。本製品の LAN コネクタに LAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet、Ethernet であるかを検出し、自動的に切り替えます。ここでは、LAN ケーブルの接続、LAN インタフェースをご使用になる際の注意事項を説明します。

## 1 適正なケーブルの確認

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100Mbps) でご使用になるときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。

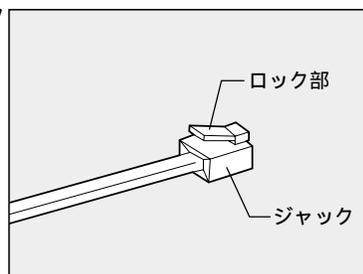
10BASE-T 規格 (10Mbps) でご使用になるときは、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。

## 2 LAN ケーブルの接続



お願い

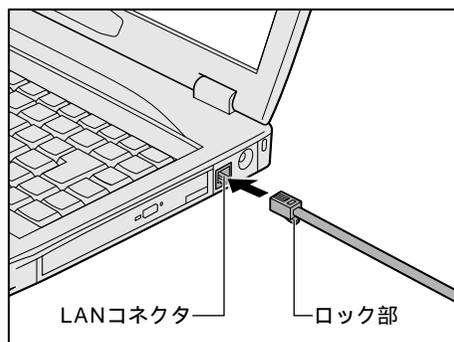
- LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、ジャックの部分を持って行ってください。また、はずすときは、ジャックのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LAN ケーブルのジャックを右側面の LAN コネクタに差し込む

ロック部を手前にして、パチンと音がするまで差し込んでください。



3 LAN ケーブルのもう一方のジャックを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

### 3 Windows 98 / 95 のネットワーク設定について

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。購入時は既定値 (Default) が設定されています。既定値のままネットワークに接続すると、ネットワークに障害をもたらす場合があります。また、セットアップが終了し、Windows 98 / 95 の起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。後述の「起動時のパスワードの入力」を参照のうえ、パスワードを入力してください。



**注意** ・購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows 98 / 95 のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows 98 / 95 のセットアップを行なってください。



お願い

・ネットワーク設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

## ● ネットワークの設定

画面の表示例は Windows 98 の画面です。Windows 95 の場合は異なります。

**1** [スタート]-[設定]-[コントロールパネル] をクリックする

**2** [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする

**3** [ネットワークの設定] タブをクリックし、変更を行う

コンピュータに接続されているネットワークアダプタによって、画面内のアダプタ名は異なります。



(表示例)

ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行なってください。

ネットワーククライアント... ほかのコンピュータに接続する機能です。

プロトコル ..... コンピュータが通信するための言語です。通信する複数のコンピュータどうしは、同じプロトコルを使用する必要があります。

アダプタ ..... コンピュータを物理的に接続するハードウェアデバイスです。

サービス ..... このコンピュータのファイルやプリンタなどのリソースを、ほかのコンピュータから使えるようにします。

- 4 [ 識別情報 ] タブ (  98 ) [ ユーザー情報 ] (  95 ) タブをクリックし、[ コンピュータ名 ] [ ワークグループ ] をネットワーク管理者の指示に従い、設定する



( 表示例 )

-  **注意** ・コンピュータ名とワークグループは必ず既定値 ( Default、Default\_Wg ) の状態から変更してください。既定値のままのコンピュータを複数台ネットワークに接続しますと、コンピュータ名が重複し、次のエラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。



- 5 [アクセスの制御](  )、[アクセス権の管理](  ) タブで変更を行う

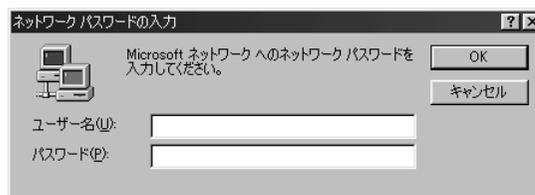


ネットワーク管理者の指示に従い、共有リソースへのアクセス権の管理方法を設定します。

- 6 設定が終了したら、[ OK ] ボタンをクリックし、パソコン本体を再起動する

## 起動時のパスワードの入力

- 1 パソコンの電源を入れる
- 2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する  
ここで表示されるダイアログボックスは、ネットワークの設定内容によって異なります(ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど)。ここでは、次のダイアログボックスを例にあげていますが、他のダイアログボックスの場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



- ・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

## 4 Windows 2000 のネットワーク設定について

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。



**注意** ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。

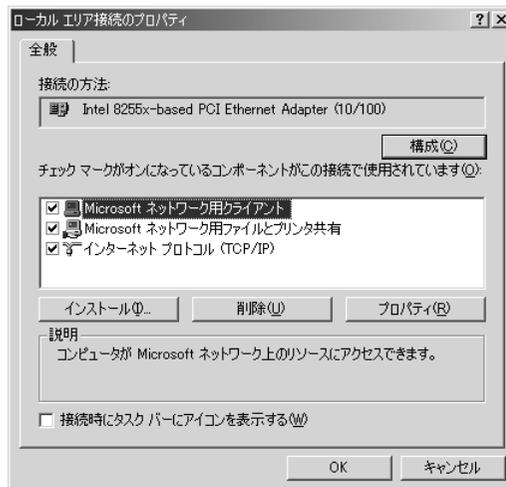


お願い

・ネットワーク設定やコンピュータ識別は、必ずネットワーク管理者の指示に従ってください。

### ● ネットワークの設定

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- 2 [ネットワークとダイヤルアップ接続]アイコンをダブルクリックする
- 3 [ローカルエリア接続]アイコンにマウスのポインタを合わせて右クリックする
- 4 プロパティを選択する
- 5 ネットワーク接続の設定を行う



(表示例)

セットアップ時に設定した構成になっています。

本製品の標準設定の場合、次のようになっています。

アダプタ : Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter ( 10/100 )  
 クライアント : Microsoft ネットワーク用クライアント  
 サービス : Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有  
 プロトコル : TCP/IP ( 自動取得 )

## ● ネットワーク上でのコンピュータ識別

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- 2 [システム]アイコンをダブルクリックする
- 3 [ネットワーク ID]タブを選択する



(表示例)

## 4 ネットワーク ID とプロパティの設定を行う

コンピュータ名、ドメイン/ワークグループ名はセットアップ時に設定した構成になっています。

変更する場合はここで再設定してください。

## 5 Windows NT のネットワーク設定について

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。



**注意** ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。



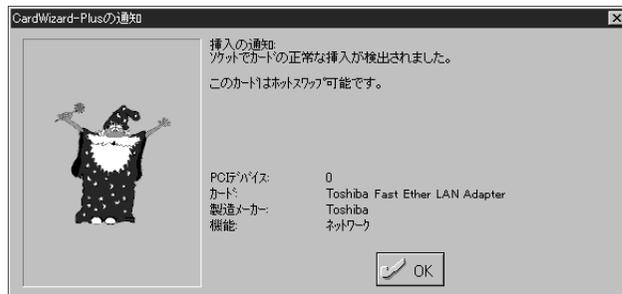
お願い

・ネットワーク設定やコンピュータ識別は、必ずネットワーク管理者の指示に従ってください。

### ● ネットワークの設定

#### 1 Administrators グループのユーザアカウントでログオンする

「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」が内蔵 LAN インタフェースを認識したことを知らせるメッセージが表示されます。



(表示例)



メモ

・「カード」、「ソケット」など、メッセージが PC カード向けの内容になっていますが、動作には問題ありません。

#### 2 [OK] ボタンをクリックする

#### 3 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル] をクリックする

#### 4 [ネットワーク]アイコンをダブルクリックする

次の画面が表示されます。



(表示例)

#### 5 識別、サービス、プロトコル、アダプタ、バインドの設定を行う

詳細は付属の『ファーストステップガイド Microsoft Windows NT Workstation』の「ネットワークへの接続」の章をご覧ください。

なお、ご購入時、およびリカバリ CD で標準システムを復元したときは Windows NT Service Pack6 がインストールされた状態になっています。

また、ご購入時のネットワークの構成は次のようになっています。

アダプタ : Toshiba Fast Ether LAN Adapter  
プロトコル : NetBEUI  
識別 : WORKGROUP  
コンピュータ名 : 初期セットアップ時に入力した名前



メモ

- ・プロトコルなどを追加する場合「いくつかの Windows NT ファイルをコピーする必要があります」というダイアログボックスが表示される場合があります。この場合は、ダイアログボックスのファイル検索場所に「C:\i386」と表示されていることを確認して [OK] ボタンを押してください。
- ・詳細については、Windows NT のヘルプを参照してください。



注意

- ・TCP/IP プロトコルの追加などネットワークの設定を変更した場合には、一部のファイルが古いバージョンに置き換わることがあります。設定完了後、Windows NT Service Pack6 をインストールしてください。  
☞ 「本節 - Service Pack6 のインストールについて」



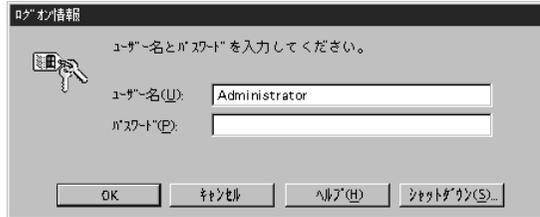
お願い

- ・あわせて《リリース情報》もご覧ください。

## ● 起動時のパスワード入力

### 1 パソコンの電源を入れる

- 2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する  
ここで表示される画面は、ネットワークの設定内容によって異なります（ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど）。ここでは、次の画面を例にあげていますが、他の画面の場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



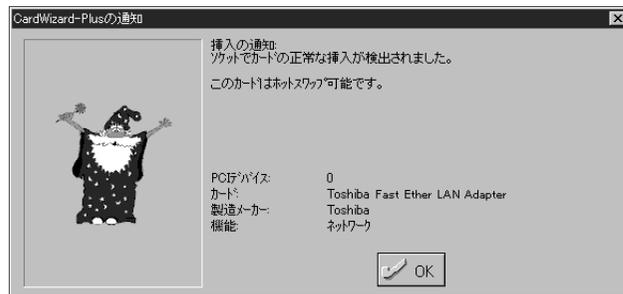
メモ

・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

ログインすると次の画面が表示されます。

これは、「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」が内蔵 LAN インタフェースを認識したことを知らせるメッセージです。

メッセージの内容が PC カード向けになっていますが、動作には問題ありません。



(表示例)

## ● Service Pack6 のインストールについて

LAN などのドライバ/プロトコルを追加/変更した場合には、Service Pack6 を再度インストールしなければなりません。

なお、Service Pack6 をインストールすると一部のファイルが置き換えられてしまい、正常に動作しなくなるアプリケーションもあります。

インストールの際は以下の手順に従ってください。



メモ

- ・「東芝パワーマネジメントシステム」をインストール/アンインストールする方法については、アプリケーション CD 内の WinNT4¥Softwares¥Tapm 内の readme.rtf をご覧ください。
- ・詳細については、《オンラインマニュアル》または《リリース情報》をご覧ください。

- 1** Administrators グループのユーザアカウントでログオンする
- 2** 「東芝パワーマネジメントシステム」をアンインストールする
- 3** デスクトップにある「Service Pack6 セットアップ」アイコンをダブルクリックする  
Service Pack6 のインストールが始まります。画面の指示に従ってインストールを行なってください。  
インストールが完了した後は、必ず再起動してください。
- 4** 「東芝パワーマネジメントシステム」を再インストールする  
インストールが完了した後は、必ず再起動してください。

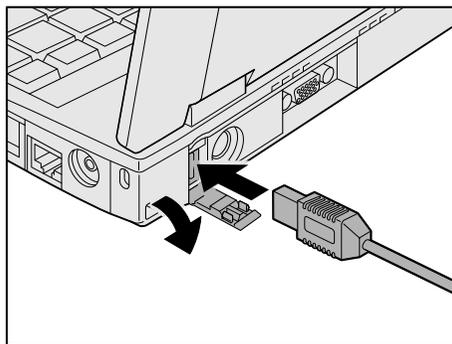
# 10 USB 機器の接続

本製品には、USB 規格の機器を取り付けることのできる、USB コネクタが用意されています。USB 機器が対応しているシステムを確認のうえ、お使いください。

\* Windows NT 4.0 では、USB 機器はサポートしていません。

## ● 取り付け

- 1 USB コネクタカバーを開け、USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む



- 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 機器に差し込む  
手順 2 が必要ない機器もあります。



お願い

- ・ USB 対応の周辺機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- ・ 今後出荷される USB 対応の周辺機器については、動作確認ができていないためすべての周辺機器の動作を保証することはできません。
- ・ USB 機器を接続したままスタンバイ機能を実行すると、復帰後 USB 機器が使用できない場合があります。その場合は、パソコンを再起動してください。

## ● 取りはずし

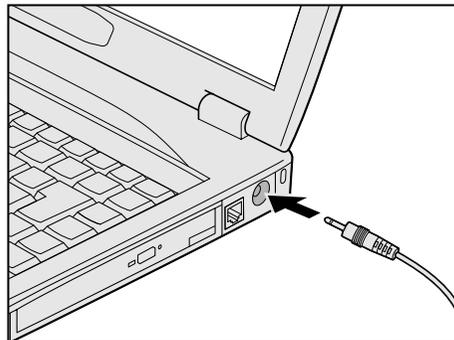
- 1 パソコン本体と USB 機器に差し込んである USB ケーブルのプラグを抜く  
☞ USB 機器についての詳細 ⇨ 『USB 機器に付属の説明書』

# 11 テレビへの接続

本製品にはビデオ出力端子が装備されており、画像を出力できます。  
市販のビデオ出力ケーブルを使用すると、テレビなどを接続できます。

## ● 取り付け

- 1 ビデオ出力ケーブルのプラグ（ミニプラグ）をパソコン本体のビデオ出力端子に差し込む



- 2 もう一方のプラグをテレビの入力端子に差し込む



メモ

- ・本製品のビデオ出力端子には、ミニプラグのビデオ出力ケーブルが接続できます。  
また、付属のビデオ変換ケーブルを使用して、ビデオ出力ケーブルの端子をピンプラグからミニプラグに変換することができます。

## ● 取りはずし

- 1 パソコン本体とテレビに差し込んであるビデオケーブルのプラグを抜く



お願い

- ・テレビなどとCRTディスプレイを同時に接続しないでください。同時に接続すると、正常に表示されません。

## ● テレビに表示する

テレビに表示するには次の方法で表示装置を切り替えてください。表示装置を切り替えないと、テレビには表示されません。

## ● 方法 1 - 画面のプロパティで設定する

**98** **2000**

- [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- [画面]をダブルクリックする
- [設定]タブで[詳細]ボタンをクリックする
- [S3 Duo View +]タブの[表示デバイス選択]で次のいずれかを選択する
- LCD/TV ..... 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示
  - LCD/TVを選択するには、[コントローラの選択]で[デュアルコントローラ]を選択してください。
- TV ..... テレビだけに表示

**95** **NT**

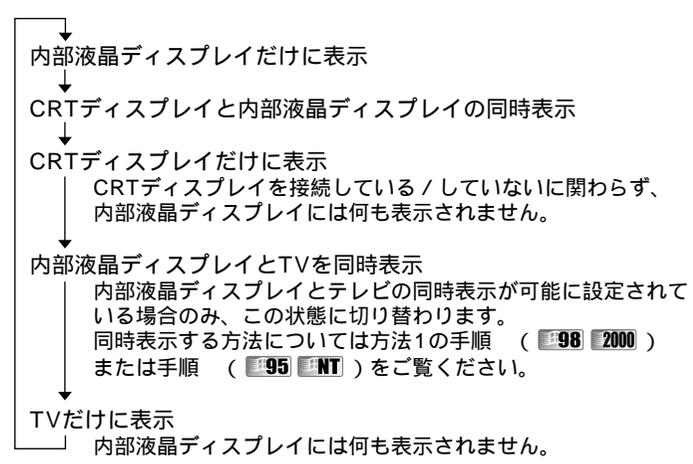
- [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- [画面]をダブルクリックする
- [S3 Duo View +]タブの[表示デバイス選択]で次のいずれかを選択する
- LCD/TV ..... 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示
  - LCD/TVを選択するには、[コントローラの選択]で[デュアルコントローラ]を選択してください。
- TV ..... テレビだけに表示



・MS-DOSモードを選択している場合、内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示はできません。

## ● 方法 2 - Fn + F5 キーを使う

押すたびに次の順で表示装置が切り替わります。



☞ CRT ディスプレイへの表示 ⇨ 「本章 13 CRT ディスプレイの接続」

# 12 プリンタの接続

PRT コネクタにパラレルインタフェースを持つプリンタを接続できます。プリンタを使用するには、ドライバのインストールや設定が必要です。また、接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

## ● プリンタドライバのインストール

Windows が標準でドライバを用意していないプリンタの場合、プリンタの製造元が提供するフロッピーディスクやCD-ROM などのインストールディスクが必要です。詳しくは、『プリンタに付属の説明書』をご覧ください。

**1** [スタート]-[設定]-[プリンタ]をクリックする  
[プリンタ]画面が表示されます。

**2** [プリンタの追加] アイコンをダブルクリックする  
ウィザードが起動します。画面に表示されるメッセージに従って操作してください。

テストページを印刷する場合は、印刷する前に、プリンタの電源が入っていること、および印刷の準備ができていることを確認してください。

## ● プリンタポートモードの設定

ご使用になるプリンタにあわせてプリンタモードの設定が必要です。

### ● Windows 98 / 95 の場合

**1** [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする

**2** [Toshiba Hardware Setup] をダブルクリックする

**3** [Parallel/Printer] タブで [Parallel Port Mode] を、使用するプリンタに合ったモードに設定する

ECP (標準値)..... ECP に対応します。大半のプリンタでは、ECP に設定します。

Standard Bi-directional ... 双方向に設定します。一部のプリンタまたは、プリンタ以外のパラレルインタフェース対応機器を使用する場合に設定します。

### ● Windows 2000 / NT の場合

**1** [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする

**2** [HW セットアップ] をダブルクリックする

**3** [プリンタ] タブで [プリンタポートモード] を、使用するプリンタに合ったモードに設定する

ECP (標準値).... ECP に対応します。大半のプリンタでは、ECP に設定します。  
双方向..... 双方向に設定します。一部のプリンタまたは、プリンタ以外のパラレルインタフェース対応機器を使用する場合に設定します。

# 13 CRT ディスプレイの接続

本製品には、CRT ディスプレイを接続することのできる RGB コネクタが用意されています。CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその CRT ディスプレイを認識します。また、カラーかモノクロかを判断します。本製品では VGA と SVGA のビデオモードをサポートしています。

## 1 取り付け / 取りはずし



**注意** ・CRT ディスプレイを接続するときには、必ず電源を切ってから行なってください。電源を入れたまま接続すると、故障のおそれがあります。

### ● 取り付け

- 1** CRT ディスプレイに付属のケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む。コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。
- 2** CRT ディスプレイに付属のケーブルのもう一方のプラグを CRT ディスプレイのコネクタに差し込む

### ● 取りはずし

- 1** RGB コネクタに差し込んである CRT ディスプレイに付属のケーブルのプラグを抜く

## ② CRT ディスプレイを接続した場合の表示方法

CRT ディスプレイを接続した場合、次の中から表示方法を選ぶことができます。

- ・ CRT ディスプレイだけ表示する
- ・ 内部液晶ディスプレイだけ表示する
- ・ CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する



・ CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、モニタ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

表示方法を切り替えるには、次の方法があります。

### ● 方法 1 - 画面のプロパティで設定する

#### ● Windows 98 / 2000 の場合

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- 2 [画面]をダブルクリックする
- 3 [設定]タブで[詳細]ボタンをクリックする
- 4 [S3 Duo View +]タブの[表示デバイスの選択]で次のいずれかを選択する
  - LCD ..... 内部液晶ディスプレイだけに表示
  - LCD / CRT ..... 内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示
  - CRT ..... CRTディスプレイだけに表示

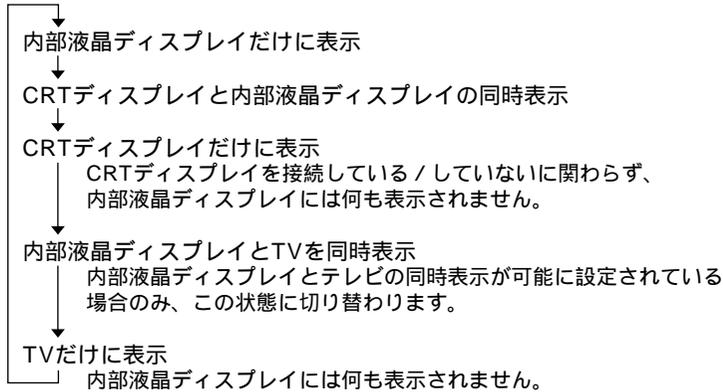
#### ● Windows 95 / NT の場合

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- 2 [画面]をダブルクリックする
- 3 [S3 Duo View +]タブの[表示デバイスの選択]で次のいずれかを選択する
  - LCD ..... 内部液晶ディスプレイだけに表示
  - LCD / CRT ..... 内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示
  - CRT ..... CRTディスプレイだけに表示

## ● 方法 2 - [Fn] + [F5] キーを使う

### 1 [Fn] + [F5] キーを押す

押すたびに次の順で表示装置が切り替わります。



☞ TV への表示 ⇨ 「本章 11 テレビへの接続」

## ● 方法 3 - ユーティリティで設定する

### ● Windows 98 / 95 の場合

1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする

2 [Toshiba Hardware Setup] をダブルクリックする

3 [Display] タブで [Power On Display] を設定する

Auto-Selected ..... CRT ディスプレイだけ (CRT ディスプレイ接続時)

Simultaneous ..... 内部液晶ディスプレイと CRT ディスプレイの同時表示

### ● Windows 2000 / NT の場合

1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする

2 [HW セットアップ] をダブルクリックする

3 [ディスプレイ] タブで [ディスプレイ装置] を設定する

内部 / 外部 ..... CRT ディスプレイだけ (CRT ディスプレイ接続時)

同時使用 ..... 内部液晶ディスプレイと CRT ディスプレイの同時表示

## ● 方法 4 - [セットアッププログラム] で設定する

1 「セットアッププログラム」を起動する

☞ 起動方法 ⇨ 「6章 1-1 セットアッププログラムを起動する方法」

2 [DISPLAY] で [Power On Display] を設定する

☞ 「6章 1-4 設定項目」

# 14 外付けキーボードの接続

PS/2 対応のキーボードを PS/2 コネクタに接続して使用することができます。



**注意** ・外付けキーボードを接続するときには、必ず電源を切ってから行ってください。  
電源を入れたまま接続すると、故障のおそれがあります。

## ● 取り付け

- 1 PS/2 コネクタに外付けキーボードのプラグを差し込む  
接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

## ● 取りはずし

- 1 パソコン本体に差し込んである外付けキーボードのプラグを持って抜く

# 5

## 便利な機能

本章では、パソコンを使いやすくするための環境設定用のユーティリティについて説明しています。

- 1** 消費電力を節約する ..... 160
- 2** Toshiba Hardware Setup  
/ HW セットアップ ..... 177



# 1 消費電力を節約する

本製品には、パソコン本体を省電力で使うための機能が用意されています。これらの機能を使うと、使用目的や環境に合わせて簡単に省電力設定が行えます。

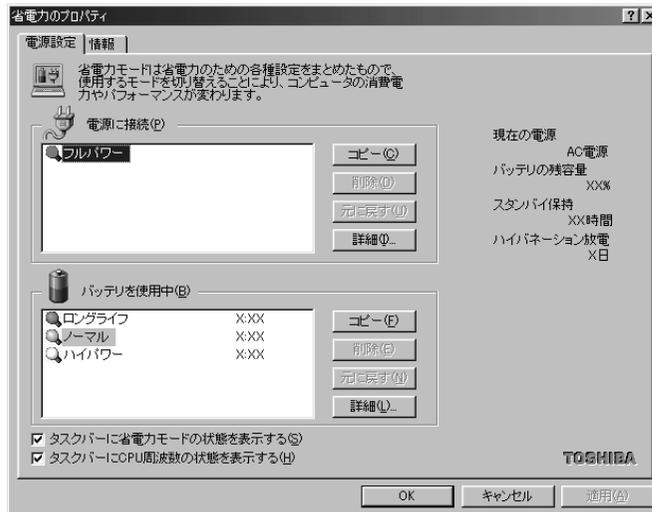
省電力設定を行うことによって、パソコン本体のバッテリー消費電力を抑え、より長い時間お使いいただけます。

ご使用のシステムの「省電力ユーティリティ」をご覧ください。

## 1 省電力ユーティリティ (Windows 98)

### 起動方法

- 1 タスクバーの省電力アイコン 、もしくは[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリック後、[省電力]をダブルクリックする  
画面の表示例は、インテル®SpeedStep™テクノロジー対応モバイルPentium® III プロセッサモデルの画面です。



(表示例)

### [電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。

[電源に接続][バッテリーを使用中]には、設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用したい省電力モードに設定します。[電源に接続][バッテリーを使用中]はACアダプタに接続している/していないによって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

また、すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本節 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

### フルパワー

最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、[電源に接続](ACアダプタを使用するとき)がこのモードに設定されています。

### ハイパワー

性能を優先して省電力制御を行います。

### ノーマル

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、[バッテリー使用中](バッテリーを使用するとき)がこのモードに設定されています。

### ロングライフ

消費電力を優先して省電力制御を行います。

## ● 省電力モードの作成

- 1 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- 2 [コピー] ボタンをクリックする  
[~のコピー] という省電力モードができます。
- 3 その省電力モードの名前を変更する

## ● 省電力モードの削除

- 1 削除する省電力モードをクリックする
- 2 [削除] ボタンをクリックする



メモ

- ・[元に戻す] ボタンをクリックすると直前に行なった削除をキャンセルすることができますが、[OK] ボタンをクリックした後は元に戻すことはできません。
- ・ご購入時に用意されている4つの省電力モードを削除することはできません。

## ● タスクバーに省電力モードの状態を表示する

ここをチェックすると現在の省電力モードを示す省電力アイコン  がタスクバーに表示されます。このチェックをはずすとアイコンは表示されません。

省電力アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、省電力ユーティリティを開くことができます。

## ● タスクバーに CPU 周波数の状態を表示する

インテル®SpeedStep™ テクノロジー対応モバイル Pentium® III プロセッサモデルのみ表示されます。

ここをチェックすると現在の CPU 周波数 (インテル® SpeedStep™ テクノロジー対応モバイル Pentium® III プロセッサ) の状態を示す CPU 周波数アイコンがタスクバーに表示されます。このチェックをはずすとアイコンは表示されません。

CPU 周波数アイコンを表示させておくと、そのアイコンをクリックすることにより、CPU 周波数を変更することができます。

## ● [情報] タブ

バッテリー残容量の変化やバッテリー残量、パソコンの温度などの情報を表示します。

## ● 省電力モードの詳細設定

省電力モードに関する詳細設定を行います。

### ● 起動方法

- 1 [電源設定] タブ - 利用したい省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする



(表示例)

### ● [全般] タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

### ● [省電力] タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、モニターやハードディスクの電源を切る時間、モニターの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、PCカードに対する省電力設定を行います。

### ● [動作] タブ

ここでは、電源ボタンを押したときやパソコンのディスプレイパネルを閉じたとき、システムアイドルのときの動作を設定します。



- ・ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

## スタンバイ機能

スタンバイ機能とは、電源がオンの状態で表示画面をオフにし、CPU および他のデバイスが休止している状態です。次に電源スイッチを押すと、以前の状態がすばやく再現されます。



**注意** ・スタンバイ中は、増設メモリの取り付け / 取りはずしを行わないでください。スタンバイ中は電源が入っていますので、増設メモリの取り付け / 取りはずしを行うと、感電、故障のおそれがあります。



お願い

- ・ 次のような場合はスタンバイ機能が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。
  - ・ 誤った使い方をしたとき
  - ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
  - ・ バッテリーが消耗したとき
  - ・ 故障、修理、電池交換のとき
  - ・ バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき

## ハイバネーション機能

ハイバネーション機能とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。



お願い

- ・ ハイバネーション中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LED が点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- ・ ドライブ C を、Windows のシステムツールである「ドライブスペース」や市販の圧縮ユーティリティで圧縮すると、ハイバネーション機能が使用できなくなります。ハイバネーション機能を使用する際は、元の状態に復元してください。
- ・ ハイバネーション中に増設メモリの取り付け / 取りはずしを行わないでください。ハイバネーション機能が無効になります。
- ・ 増設メモリの取り付け / 取りはずしを行なったときは、ハイバネーション用のファイルを作成し直してください。
  - ☞ ハイバネーション用のファイルを作成し直す ☞ 「4章 8 増設メモリ」
- ・ ハイバネーション機能が有効（[電源の管理]-[休止状態]タブの[休止状態をサポートする]がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、ハイバネーション機能を実行して電源を切ります。ハイバネーション機能が無効の場合、何もしないで電源が切れますので、ハイバネーション機能を有効にしておくことをおすすめします。

## シャットダウン機能

Windows 98 を終了して電源を切ります。

スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求めるここにチェックを入れると Windows のパスワードを入力しないとスタンバイ状態やハイバネーション状態から復活できないようになります。

## ● [アラーム] タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知するためのサウンドやメッセージおよび実行する動作やプログラムを設定します。



メモ

- ・[アラーム] タブは [電源設定] タブの [電源に接続] に登録された省電力モードの場合には表示されません。
- ・ここで表示しているアラームの設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

## ● ヘルプの開き方

省電力ユーティリティの詳細については、省電力ユーティリティのヘルプをご覧ください。

- 1 [省電力ユーティリティ] を起動し、画面右上の **?** をクリックする  
マウスポインタが **?** に変わります。
- 2 画面上の知りたい場所をクリックする  
説明文がポップアップで表示されます。

## ② 省電力ユーティリティ (Windows 95)

ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPU の処理速度、各ポート電源の制御などを設定します。

## ● 起動方法

- 1 タスクバーの省電力アイコン 、もしくは [コントロールパネル] - [省電力] をダブルクリックして、省電力ユーティリティを起動する  
画面の表示例は、インテル®SpeedStep™ テクノロジー対応モバイル Pentium® III プロセッサモデルの画面です。



(表示例)



メモ

- ・[スタート] - [プログラム] - [東芝ユーティリティ] - [省電力設定] をクリックして起動することもできます。

## ● [省電力モード] タブ

### ● 省電力モード

バッテリー使用時、ACアダプタ使用時それぞれ別々に設定可能です。次の省電力モードが用意されています。

#### フルパワーモード

省電力制御を行いません。システムの初期状態でACアダプタを使用するときには、このモードに設定されています。

#### ハイパワーモード

性能を優先して省電力制御を行います。

#### ミディアムパワーモード

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。システムの初期状態でバッテリーを使用するときには、このモードに設定されています。

#### ローパワーモード

消費電力を優先して省電力制御を行います。

#### ユーザ設定モード

各パワーモードとは別に省電力設定を自由に設定できます。

基本的な4つのモード以外の省電力設定を行うときは、このモードを使用してください。省電力モードを選択して[詳細設定]ボタンを押すと、選択した省電力モード設定の確認および変更ができます。

### ● [詳細設定] ボタン

このボタンを押すと、選択している各省電力モードに対する細かい省電力設定を行う画面を表示します。

各タブでは次のことが設定できます。

#### [ディスプレイ] タブ

キーボード、アキュポイントおよびマウスをある一定時間使用していないとき、画面表示を自動的に消して、消費電力を少なくします。バックライトとディスプレイの両方とも消すので、画面表示に使用する電力を最少にすることができ、もっとも省電力の効果があります。

また、画面の輝度(バックライトの明るさ)を下げることによっても省電力の効果があります。

#### [HDD] タブ

ハードディスクを一定時間使用していないときに、ハードディスクのモータを停止させて、消費電力を少なくします。

ハードディスクがオフの状態、ハードディスクへのアクセスが発生すると、ハードディスクが使用できるようになるまで、しばらく時間がかかります。

また、さらに省電力効果を向上させ、使い勝手を良くするために監視設定機能があります。

## [ CPU ] タブ

CPU 処理速度を切り替えるなどの、CPU の制御処理を行い、消費電力を減らすことができます。

また、CPU が過熱したときには、CPU 処理速度を自動的に低速にして過熱防止を行います。

## [ システム ] タブ

再起動の方法と、システム自動オフ時間を設定できます。

システム自動オフ機能とは、キーボード、アキュポイント、マウス、ハードディスクなどを一定時間使用していないときに、自動的にサスペンドまたはハイバネーション機能を実行して、システムの電源を切る機能です。

省電力ユーティリティの [ システム自動オフ時間 ] での設定が必要です。



- ・CD-ROM の自動挿入機能が有効になっている場合は、システム自動オフ機能が動きません。Windows の「デバイスマネージャ」で CD-ROM の自動挿入機能を無効にしてください。
  - ・既定値は次のようになっています。
    - フルパワーモード : ブート
    - それ以外のモード : サスペンド / レジューム
- ブート、サスペンド / レジュームの切り替えは、タスクバー上の省電力アイコンでも変更できます。

### パネルスイッチ機能

[ サスペンド / レジューム ] を選択し、[ パネルを閉じたときサスペンド、開いたときレジュームする ] をチェックしてオンに設定すると、パネルスイッチ機能を使用できます。パネルスイッチ機能とは、ディスプレイパネルを閉じた際に自動的にサスペンド機能またはハイバネーション機能を実行し、その状態でディスプレイパネルを開けるとレジュームを行なってディスプレイパネルを閉じる前の状態に戻す機能です。

### ハイバネーション機能

[ サスペンド / レジューム ] を選択し、[ ハイバネーション機能を有効にする ] をチェックしてオンに設定すると、パソコン本体の電源を切ったときに、ハイバネーション機能が働きます。

ハイバネーション機能とはパソコン本体の電源を切ったときに、メモリの内容をハードディスクに保持する機能です。次にディスプレイを開くと、以前の状態を再現します。ハイバネーション機能は、パソコン本体に対しての機能です。周辺機器 ( プリンタなど ) に対しては動きません。

このハイバネーション機能を使うと、次の利点があります。

- ・バッテリーを使い切って、パソコンの電源が切れてもデータが保存できる
- ・システムの状態を再現できる
- ・こまめに電源を切ることで節電できる
- ・システム自動オフ時間を設定できる
- ・パネルスイッチ機能を使用できる



お願い

- ・ハイパネーション中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk  LEDが点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- ・ドライブCを、Windowsのシステムツールである「ドライブスペース」や市販の圧縮ユーティリティで圧縮すると、ハイパネーション機能が使用できなくなります。ハイパネーション機能を使用する際は、元の状態に復元してください。
- ・ハイパネーション中に増設メモリの取り付け/取りはずしを行わないでください。ハイパネーション機能が無効になります。
- ・増設メモリの取り付け/取りはずしを行なったときは、ハイパネーション用のファイルを作成し直してください。  
 ハイパネーション用のファイルを作成し直す  「4章 8 増設メモリ」

### サスペンド機能

[ハイパネーションを有効にする]のチェックがオフのとき、パソコンの電源を切るとサスペンド機能が有効になります。

サスペンド機能とは、パソコン本体の電源を切ったときに、メモリの内容を保持しておく機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します(ハイパネーション機能を使用した場合よりも早く復帰します)。



お願い

- ・次のような場合はサスペンド機能が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。
  - ・誤った使い方をしたとき
  - ・静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
  - ・バッテリーが消耗したとき
  - ・故障、修理、バッテリー交換をしたとき
  - ・バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき
  - ・増設メモリの取り付け/取りはずしをしたとき
  - ・電源を切った直後にすぐ電源を入れたとき

### [その他] タブ

本製品は、次のような通信デバイスに対して、自動省電力機能を提供しています。

PCカードタイプの通信デバイス：モデムカード

ISDNカード

シリアルアダプタカード

通信デバイスの自動省電力機能とは、通信していない間の通信デバイスへの電源供給を自動的に最低限に抑える機能です。

これらの機能は、ユーザに意識させずに行われます。

PCカードの省電力制御の設定は省電力ユーティリティで行うようにし、[コントロールパネル]-[パワーマネージメント]-[PCカードモデム]での設定は行わないでください。



メモ

- ・各タブにある[既定値]ボタンを押すと、各項目を出荷時の設定状態に戻します。

## ● タスクバーに省電力モードの状態を表示する

ここをチェックすると、現在の省電力モードを示す省電力アイコン  をタスクバーのインジケータ領域中に表示します。このチェックを消すと、省電力アイコンを表示しません。

省電力アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、省電力ユーティリティを開くことができます。

## ● タスクバーに CPU 周波数の状態を表示する

インテル®SpeedStep™ テクノロジー対応モバイル Pentium® III プロセッサモデルのみ表示されます。

ここをチェックすると現在の CPU 周波数（インテル® SpeedStep™ テクノロジー対応モバイル Pentium® III プロセッサ）の状態を示す CPU 周波数アイコンがタスクバーに表示されます。このチェックをはずすとアイコンは表示されません。

CPU 周波数アイコンを表示させておくと、そのアイコンをクリックすることにより、CPU 周波数を変更することができます。

## ● [ タイマオン機能 ] タブ

タイマオン機能の設定を行います。

タイマオン機能とは、指定した時刻、日付に、パソコンを自動起動する機能です。指定できる日時は、設定当日より 1 年間です。

### 時刻の設定

タイマオン機能を有効にするとき、チェックして設定をオンにします。自動的に電源を入れる時間を設定してください。

### 日付の設定

自動的に電源を入れる日にちを指定する場合は、チェックして日付を設定してください。



メモ

- ・日付のチェックがオフの状態では、タイマオンの実行時刻は、現在以降の 24 時間の間になります。

たとえば、現在時刻が 15:30 の場合

時刻を 16:30 に設定すると、当日の 16:30 に自動起動を行います。

時刻を 15:00 に設定すると、翌日の 15:00 に自動起動を行います。

- ・日付のチェックをオンにすると、タイマオンの実行日時は、当日から翌年の一昨日までの 1 年間になります。

たとえば、現在の日時が「1999 年 12 月 12 日 10:00」の場合

日付の設定を 12 月 12 日に、時刻の設定を 10:30 に設定した場合、当日（1999 年 12 月 12 日）の 10:30 に自動起動を行います。

日付の設定を 11 月 12 日に、時刻の設定を 10:30 に設定した場合、「2000 年 11 月 12 日 10:30」に自動起動を行います。

日付を当日、時刻を現時刻より前（例：日付の設定を 12 月 12 日に、時刻の設定を 9:30）に設定した場合、エラーとなります。

## ● ヘルプの開き方

省電力ユーティリティの詳細については、省電力ユーティリティのヘルプをご覧ください。

- 1 [スタート]-[プログラム]-[東芝ユーティリティ]-[省電力設定ヘルプ]をクリックする

省電力ユーティリティのヘルプが開きます。

## ● 3 省電力ユーティリティ (Windows 2000)

### ● 起動方法

- 1 タスクバーの省電力アイコン 、もしくは[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリック後、[省電力]をダブルクリックする  
画面の表示例は、インテル®SpeedStep™ テクノロジ対応モバイル Pentium® III プロセッサモデルの画面です。



(表示例)

### ● [電源設定] タブ

使用目的や使用環境(モバイル、会社、家など)に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。

[電源に接続][バッテリーを使用中]には、設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用したい省電力モードに設定します。[電源に接続][バッテリーを使用中]はACアダプタに接続している/していないによって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

また、すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本節 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

### フルパワー

最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、[電源に接続](ACアダプタを使用するとき)がこのモードに設定されています。

### ハイパワー

性能を優先して省電力制御を行います。

### ノーマル

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、[バッテリー使用中](バッテリーを使用するとき)がこのモードに設定されています。

### ロングライフ

消費電力を優先して省電力制御を行います。

## ● 省電力モードの作成

- 1 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- 2 [コピー] ボタンをクリックする  
[~のコピー]という省電力モードができます。
- 3 その省電力モードの名前を変更する

## ● 省電力モードの削除

- 1 削除する省電力モードをクリックする
- 2 [削除] ボタンをクリックする



メモ

- ・[元に戻す] ボタンをクリックすると直前に行なった削除をキャンセルすることができますが、[OK] ボタンをクリックした後は元に戻すことはできません。
- ・ご購入時に用意されている4つの省電力モードを削除することはできません。

## ● タスクバーに省電力モードの状態を表示する

ここをチェックすると現在の省電力モードを示す省電力アイコン  がタスクバーに表示されます。このチェックをはずすとアイコンは表示されません。

省電力アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、省電力ユーティリティを開くことができます。

## ● タスクバーに CPU 周波数の状態を表示する

インテル®SpeedStep™ テクノロジ対応モバイル Pentium® III プロセッサモデルのみ表示されます。

ここをチェックすると現在の CPU 周波数（インテル® SpeedStep™ テクノロジ対応モバイル Pentium® III プロセッサ）の状態を示す CPU 周波数アイコンがタスクバーに表示されます。このチェックをはずすとアイコンは表示されません。

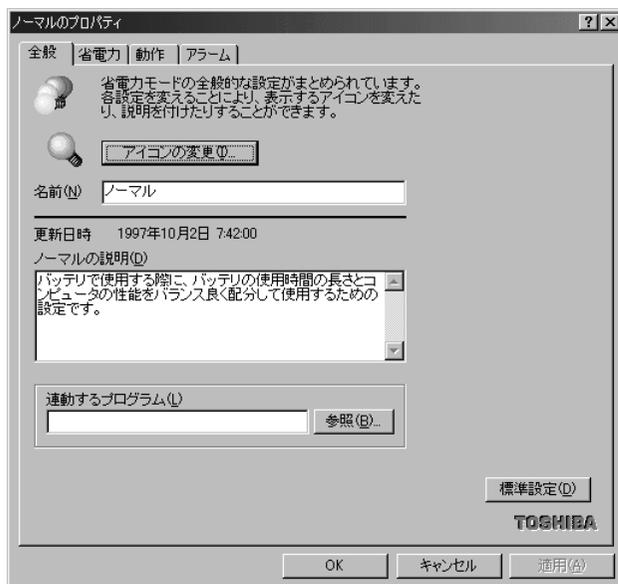
CPU 周波数アイコンを表示させておくと、そのアイコンをクリックすることにより、CPU 周波数を変更することができます。

## ● 省電力モードの詳細設定

省電力モードに関する詳細設定を行います。

### ● 起動方法

- 1 [電源設定] タブで利用したい省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする



(表示例)

### ● [全般] タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

### ● [省電力] タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPU の処理速度などを設定します。また、ファンに対する省電力設定を行います。

## ● [動作] タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイパネルを閉じたとき、システムアイドルのときの動作を設定します。



メモ

- ・ [電源ボタンを押した時] [コンピュータを閉じた時] には、[電源オプション] - [休止状態] タブで「休止状態をサポートする」がチェックされている場合は、ハイバネーション機能が使用できます。
- ・ ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

### スタンバイ機能

スタンバイ機能とは、電源がオンの状態で表示画面をオフにし、CPU および他のデバイスが休止している状態です。次に電源スイッチを押すと、以前の状態がすばやく再現されます。



**注意** ・スタンバイ中は、増設メモリの取り付け/取りはずしを行わないでください。スタンバイ中は電源が入っていますので、増設メモリの取り付け/取りはずしを行うと、感電、故障のおそれがあります。



お願い

- ・ 次のような場合はスタンバイ機能が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。
  - ・ 誤った使い方をしたとき
  - ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
  - ・ バッテリーが消耗したとき
  - ・ 故障、修理、電池交換のとき
  - ・ バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき

### ハイバネーション機能

ハイバネーション機能とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。



お願い

- ・ ハイバネーション中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LED が点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- ・ ハイバネーション機能が有効 ([電源オプション] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている) の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、ハイバネーション機能を実行して電源を切ります。ハイバネーション機能が無効の場合、何もしないで電源が切れますので、ハイバネーション機能を有効にしておくことをおすすめします。

### シャットダウン機能

Windows 2000 を終了して電源を切ります。

スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求めるここにチェックを入れると Windows のパスワードを入力しないとスタンバイ状態やハイバネーション状態から復活できないようになります。

## ● [アラーム] タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知するためのサウンドやメッセージおよび実行する動作やプログラムを設定します。



・[アラーム] タブは [電源設定] タブの [電源に接続] に登録された省電力モードの場合には表示されません。

## ● ヘルプの開き方

省電力ユーティリティの詳細については、省電力ユーティリティのヘルプをご覧ください。

- 1 [省電力ユーティリティ] を起動し、画面右上の **?** をクリックする  
マウスポインタが **?** に変わります。
- 2 画面上の知りたい場所をクリックする  
説明文がポップアップで表示されます。

# 4 省電力ユーティリティ (Windows NT)

## ● 起動方法

- 1 タスクバーの省電力アイコン 、もしくは、[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[省電力] をダブルクリックして、省電力ユーティリティを起動する



(表示例)



・[スタート]-[プログラム]-[東芝パワーマネージメントシステム]-[省電力ユーティリティ] をクリックして起動することもできます。

## 5 章

便利な機能

## ● [省電力モード] タブ

### ● 省電力モード

次の省電力モードが用意されています。

#### フルパワーモード

パソコンを最大パワーで使用します。システムの初期状態で AC アダプタを使用するときには、このモードに設定されています。

#### ハイパワーモード

性能を優先して省電力制御を行います。

#### ミディアムパワーモード

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。システムの初期状態でバッテリーを使用するときには、このモードに設定されています。

#### ローパワーモード

消費電力を優先して省電力制御を行います。

#### ユーザ設定モード

各パワーモードとは別に省電力設定を自由に設定できます。

基本的な 4 つのモード以外の省電力設定を行うときは、このモードを使用してください。

省電力モードを選択して [詳細設定] ボタンを押すと、選択した省電力モード設定の確認および変更ができます。

### ● [詳細設定] ボタン

このボタンを押すと、選択している各省電力モードに対する細かい省電力設定を行う画面を表示します。

各タブでは次のことが設定できます。

#### [ディスプレイ] タブ

キーボード、アキュポイントおよびマウスをある一定時間使用していないとき、画面表示を自動的に消して、消費電力を少なくします。バックライトとディスプレイの両方とも消すので、画面表示に使用する電力を最少にすることができ、もっとも省電力の効果があります。

また、画面の輝度（バックライトの明るさ）を下げることによっても省電力の効果があります。

#### [HDD] タブ

ハードディスクを一定時間使用していないときに、ハードディスクのモータを停止させて、消費電力を少なくします。

ハードディスクがオフの状態、ハードディスクへのアクセスが発生すると、ハードディスクが使用できるようになるまで、しばらく時間がかかります。

また、さらに省電力効果を向上させ、使い勝手を良くするために監視設定機能があります。

## [ CPU ] タブ

CPU 処理速度を切り替えるなどの、CPU の制御処理を行い、消費電力を減らすことができます。

## [ システム ] タブ

再起動の方法とスタンバイのタイミングを制御します。

サスペンド/レジュームを選択すると、システム自動停止機能やパネルスイッチ機能を利用することができます。それぞれ、[ システム ] タブで設定する必要があります。

システム自動停止機能とは、キーボード、アキュポイント、マウス、ハードディスクなどを一定時間使用していないときに、自動的にサスペンド機能を実行して、システムの電源を切る機能です。

パネルスイッチ機能とは、パソコン本体のディスプレイを閉じたときに、自動的にサスペンド機能を実行してシステムの電源をオフにし、ディスプレイを開けたときには自動的に電源をオンにする機能です。



メモ

- ・既定値は次のようになっています。  
フルパワーモード : Boot  
それ以外のモード : サスペンド/レジューム  
Boot、サスペンド/レジュームの切り替えは、タスクバー上の省電力アイコンでも変更できます。

### サスペンド機能

サスペンド/レジュームを選択すると、サスペンド機能が有効になります。

パソコン本体の電源を切ったときに、メモリの内容を保持しておく機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。

サスペンドの内容は、バッテリーの充電量が減少すると、保持できなくなります。



お願い

- ・次のような場合はサスペンド機能が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。
  - ・誤った使い方をしたとき
  - ・静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
  - ・バッテリーが消耗したとき
  - ・故障、修理、電池交換をしたとき
  - ・バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき
  - ・増設メモリの取り付け/取りはずしをしたとき
  - ・電源を切った直後にすぐ電源を入れたとき



メモ

- ・内蔵 LAN を使用している状態でサスペンド機能を実行する場合、「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」をインストールする必要があります。なお、ご購入時の状態ではインストールされています。
- ・「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」に対応していない PC カードを使用している状態で、サスペンド機能を実行すると、エラーが発生するおそれがあります。  
☞ 詳細について ☞ 《リリース情報》

## [ その他 ] タブ

システムスピーカ (システムビープ) の設定やアラームの制御を行います。



メモ

- ・各タブにある [ 既定値 ] ボタンを押すと、各項目を出荷時の設定状態に戻します。

## ● タスクバーへ省電力モードの状態を表示する

ここをチェックすると、現在の省電力モードを示す省電力アイコン  をタスクバーのインジケータ領域中に表示します。このチェックを消すと、省電力アイコンを表示しません。

省電力アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、省電力ユーティリティを開くことができます。

## ● [タイマオン機能] タブ

タイマオン機能の設定を行います。

タイマオン機能とは、指定した時刻、日付に、パソコンを自動起動する機能です。

指定できる日時は、設定当日より1年間です。

## ● ヘルプの開き方

省電力ユーティリティの詳細については、省電力ユーティリティのヘルプをご覧ください。

- 1 [スタート]-[プログラム]-[東芝パワーマネジメントシステム]-[省電力ユーティリティのヘルプ]をクリックする  
省電力ユーティリティのヘルプが開きます。

# 2 Toshiba Hardware Setup/HW セットアップ

Toshiba Hardware Setup および HW セットアップは、ハードウェアの各種機能を設定するユーティリティです。

## 1 Toshiba Hardware Setup (Windows 98 / 95)

### ● 起動方法

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル] をクリックする
- 2 [Toshiba Hardware Setup] をダブルクリックする



メモ

・標準設定ボタンを押すと、Toshiba Hardware Setup の設定がすべて標準設定の状態になります。

詳しくは、Toshiba Hardware Setup のヘルプをご覧ください。

### ● ヘルプの起動方法

- 1 [Toshiba Hardware Setup] を起動し、画面右上の **?** をクリックする  
マウスポインタが **?** に変わります。
- 2 画面上の知りたい場所をクリックする  
説明文がポップアップで表示されます。

## 2 HW セットアップ (Windows 2000 / NT)

### ● 起動方法

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[HW セットアップ] を選択する



メモ

・[標準設定] ボタンを押すと、「HW セットアップ」の設定がすべてご購入時の設定状態になります。  
・「スーパーバイザパスワード設定ツール」でユーザパスワードモードを「HW セットアップの起動禁止」に設定している場合は、「HW セットアップ」で設定を変更することはできません。



⇒ スーパーバイザパスワード設定ツール

⇒ アプリケーション CD の Common¥Softwares¥SVPWTool にある「readme.htm」

詳しくは、HW セットアップのヘルプをご覧ください。

### ● ヘルプの起動方法

- 1 [HW セットアップ] を起動し、画面右上の **?** をクリックする  
マウスポインタが **?** に変わります。
- 2 画面上の知りたい場所をクリックする  
説明文がポップアップで表示されます。

